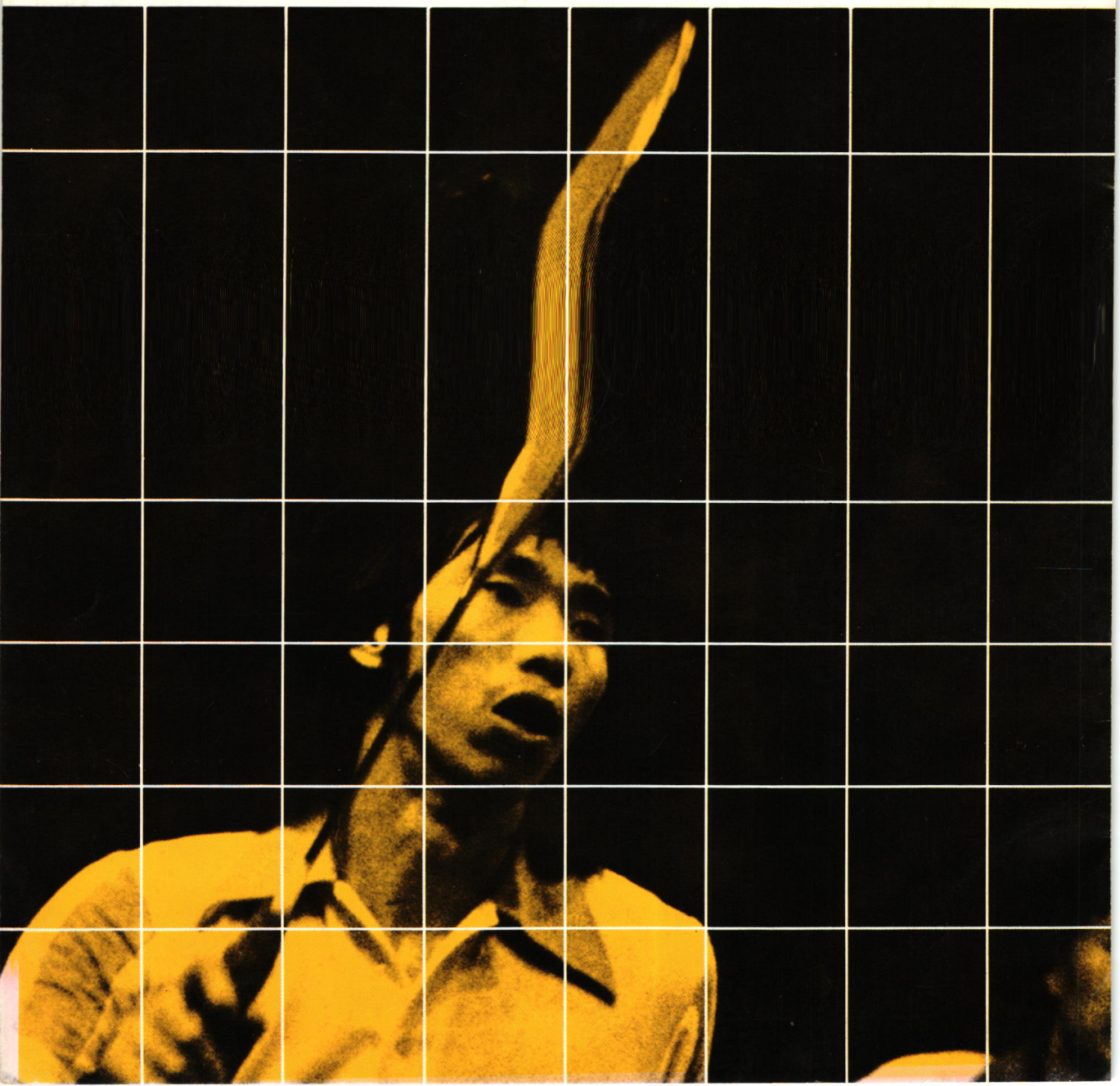
昭和44年12月23日第3種郵便物認可　昭和52年7月1日発行（毎月1回1日発行第9巻第7号）

# バドミントン界

7

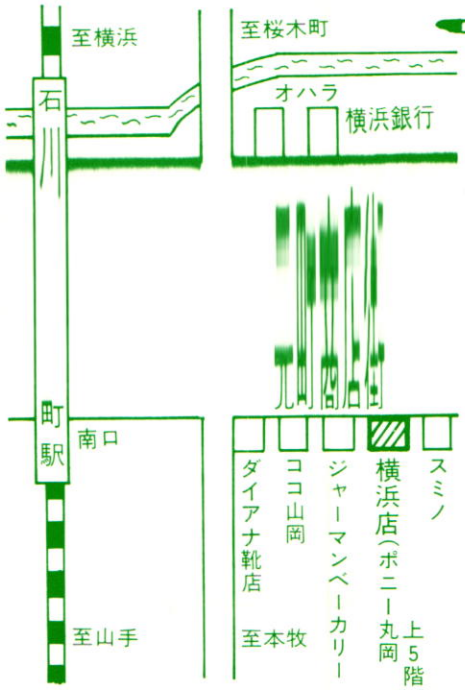
日本バドミントン協会　The Badminton World No.93 1977



# 7月2日オープン
# バグース!!元町

バグース BAGUS とはインドネシア語で
「最高だ」「素晴しい」という意味です

## ラケットショップ元町・横浜店が
## 3倍になって元町商店街へ!!






横浜店・横浜市中区元町5－203 元町スカイビル5階
(ポニー丸岡上)
☎045－651－2020

# バドミントン 7

JUL. 1977


私のインターハイの思い出……2
故障に泣いた思い出（中山紀子）
ただ無我夢中（池田信孝）
夢と現実との違いに放心（栂野尾悦子）
45度の暑さ気にならず（栂野尾昌一）
三冠はならなかったけれど（陣内裕子）
試合の前からバテバテ（飯野佳孝）

第23回関東高等学校バドミントン選手権大会
男子——日大鶴ヶ丘が5回目……4
女子——巣鴨女高が3回目……5

ユーバー杯初優勝思い出の会
セブンブリッジで養ったカン（中山紀子）……6
みんな二児の母親となり（福井正康）……7

倉敷で会いましょう……8
インターハイ出場校・選手一覧!!

新・ガッツ小島の体当り実戦教室3 ——小島一平
〝スポーツ・キチガイ〟だった……12
エツコのバドミントン・ライフ2 ——栂野尾悦子
ポコンと力こぶが……28

普及に思うこと ——伊藤基記
「過熱」にブレーキを／成績にとらわれるな……30
昭和52年度関東学生春季リーグ戦・結果
中央大、日本女子体育大が全勝優勝……32

◎創刊100号記念プレゼント企画のお知らせ／14
◎協会からのお知らせ／27
◎北から南から／36
◎談話室／39
☆グラフ—関東高等学校選手権・関東学生春季リーグ戦から



表紙デザイン・構成＝野間デザイン室
表紙・本文写真＝赤星三樹

# 私のインターハイの思い出

**さていよいよ、夏のビッグイベント〝インターハイ〟が目の前に迫ってきました。誰しもインターハイは鮮明に思い出す青春の一ページです。これから語っていただく方々にも、インターハイは〝素晴しき宝物〟なのであります。**

## 故障に泣いた思い出

**●中山　紀子（旧姓高木）（掛川西高出身）**

第11回大会（久留米市）で当時2年生だった私は、シングルスにベスト4の成績を残すことができました。2年生でベスト4ということから、当然3年生になったら「優勝を」と意気込んでいたのですが、運悪く手首を故障してしまいキケンしなければなりませんでした。

ダブルスはなんとか、パートナーの天野さん（元ユ杯メンバー）に助けられて3位に入賞することができましたが、私にとってインターハイの思い出はあまり華やいだ明かるいものではなく、むしろ優勝できなかったことで「大学へ行って日本一になるまでやろう」という気持をかき立てられた大会でした。

シングルスに出場できなかった3年生の大会（弘前市）よりも、2年生の大会の方が、より強く印象に残っています。

夢にも思わなかった「ベスト4」入りができたと同時に、その大会で優勝した横井文子さん（善通寺一高）のプレーを見て、上には上があるものだと、つくづく感心させられました。

今になって思えば、手首の故障で悔しい思いをしたことが、かえっていい薬となって幸いしたと思っています。

## ただ無我夢中

**●池田　信孝（富山商業高出身）**

当時は、遠征などへ行くこともあまりなく京都でのインターハイが初めての県外での試合でした。

田舎から出たのは初めてでしたから無我夢中で試合をしました。自信とか何とかいうよりもガムシャラに試合をして、気がついたら優勝していた（団体・ダブルス）というのが実感です。

あの年は、前年度の大会（鶴岡市）で、シングルスにベスト8入りを果たした森君（奈良商工卒、法大時代のパートナー）が抜群の強さを誇っていた年で、私も彼とシングルスをした試合（団体戦準決勝）が、一番強烈に印象に残っています。

私もその頃は（今でもそうですが）学校での苦しいトレーニングで体力には自信がありましたが、森君との試合はなんと、2時間半にも及ぶ長い試合でした。結局、ファイナルのセッティングで敗れてしまいましたが、その一戦が今でも忘れられません。

高校時代から動きまわるのが好きで、ダブルスは好きでした。その意味からいっても、パートナーには本当に恵まれていたと思います。高林弘則君（中大卒）とは今でも親友ですが、先生にいわれたからではなく、お互いによくトレーニングをしたのを覚えています。

## 夢と現実の違いに放心

**●栂野尾　悦子（旧姓竹中）（金沢二水高出身）**

私はダブルス・シングルスとも2～3回戦で負けてしまい、ただただ夢と現実には大きな開きがあると思い知らされました。

というのは地元（金沢市）での大会でしたので、期待と声援があまりにも大きく、自分も半ばその気になっていたのです。そのためかすべての試合に負けた日に、放心状態になってひとり教会へ行って〝ボケーッ〟としていました。

2年生の時も出場しましたが、その時初めて湯木さんのプレーを見てびっくりしたのを覚えています。私達がバックの「バ」の字もできない頃に、湯木さんはいとも簡単そうにハイバックを使っていました。これが同じ高校生なのだろうか、目を疑ってしまいました。

地元の開催だったので選手強化の意味で新

潟へも遠征しました。
そこで相沢マチ子さん（新潟青陵）とも試合をしました。ここでもコテンパンにやられて帰って来ました。
とにかく、まわりの期待ほど実際の力がついていなかったのが私の高校時代でした。

## 45度の暑さ気にならず

**●梅野尾　昌一（富山商業高出身）**

ボクの出場した熊本での大会は、体育館の中がナント45度。酸素ボンベを放出したり、氷の柱を立てたりの、とにかく暑い大会でした。
けれど、インターハイは暑くて苦しいものだという気持があったからか、それほど苦にはなりませんでした。体力には自信がありましたネ。
それでもシングルスの決勝では、足がケイレンしてしまい、事故タイム（当時は事故タイムが許されていた）をとって同僚の寺前信之君（立大卒）にやっと勝ちました。
戦前から、団体戦とダブルスは自信があったんですが、シングルスには堀君（岐阜工）や杉山君（岐阜工）、沼沢君（日大山形）など強敵が随分いたんですが、暑さのためみんなバテてしまい案外楽に決勝まで勝ち進むことができました。
何しろ45度という暑さですから、団体決勝で対戦した折橋君（高岡商）などは体はもう全然動かなくなっているのに、声だけは出してくるんです。まさに声で戦っているという感じでした。その気迫にはゾッとしました。
それはただ単にインターハイの決勝だからというだけではなく、高岡商業と富山商業には強いライバル意識があって、中学から東西対抗という形で育てられたため、お互いに負けたくない気持が強かったからです。
そのほかインターハイの思い出といえば2年生の時（京都市）団体戦で自分の役割がすんだというわけで夜に宿舎を抜け出し、先生に叱られたとか、

## 三冠はならなかったけれど

**●陣内　裕子（成安女子高出身）**

私は高校2年の時に好成績（シングルスベスト4）を挙げていたので、3年生の大会（名古屋市）では三冠王を狙って試合にのぞみました。
しかし、好事魔多しといいましょうか、事実上の決勝といわれた、団体戦準決勝の四条畷学園にストレートで勝ったあと、女子三冠王を狙った私の体力を考えてオーダーをはずしてしまったのです。とうとう第3シングルスの私の番までくる前に1対3で真岡女高に敗れてしまいました。
翌朝になってみると、監督さんやコーチの方は頭を坊主にしてこられました。私もそれに刺激され、ダブルス・シングルスの個人タイトルだけはどうにか優勝することができました。
ダブルスは、パートナーだった岡崎さんが卓越したダブルスプレーヤーだったので、思ったより楽に優勝できましたが、シングルスは薄氷を踏む思いでした。準決勝で西尾さん（現サントリー）にマッチポイントを握られ20数回にわたるサービス権のやりとりの末、やっと勝つことができました。
試合前、天野博江さんに「腕が折れてもスマッシュを打ち続けろ」とアドバイスされたことが、今でも頭に残っています。

## 試合の前からバテバテ

**●飯野　佳孝（三条商業高出身）**

名古屋での大会だったんですが、その前の合宿で練習をやりすぎ、疲労のどん底にあって試合前からバテバテでした。おまけに名古屋へ行く途中、豊田へ寄り、トヨタ自工で新潟商の選手達と一緒に練習をしたため、準々決勝で両足ケイレンでキケンしてしまいました。
体育館は冷房がしてあり、とても良かったんですが、コンディションの調整に失敗したのがとても残念です。もっとも、練習の量を減らして試合を迎えるほど自信がなかったのかも知れません。
結果はベスト8でしたが、大会へ行く前はシングルスに優勝するつもりでした。団体、ダブルスは出場できませんでしたが、新潟商業が団体戦で2位になったので、その自信はいっそう強くなっていたんですが……。
高校時代は、毎日4時間以上練習しました。日曜日は一日中、先輩の丸山さん（中大卒）や、新潟商業OBの大竹紘一さん（立大卒）阿部孚さん（中大卒）達によく練習してもらいました。それだけにやはり、インターハイの思い出はコンディションづくりの失敗が悔まれて仕方ありません。

●第23回関東高等学校バドミントン選手権大会

# 男子――日大鶴ヶ丘が5回目



男子優勝校・日大鶴ヶ丘高（東京）

関東地区の〝ミニ・インターハイ〟ともいうべき、第23回関東高等学校バドミントン選手権大会が、水戸市・市民体育館において、6月3日の開会式に引き続き4・5の両日にわたって繰り広げられた。

参加校、男女各35校の代表による熱気あふれる接戦は、最後まで予断を許さなかったが、結局男子は日大鶴ヶ丘高（東京）が五度目、女子は巣鴨女高（東京）が三度目の優勝を成し遂げた。

## ◆男子

▽準々決勝

日大鶴ヶ丘（東京）2―0太田市立商（群馬）

真岡農業高（栃木）2―0玉川工業高（埼玉）

今市高（栃木）2―0大宮西高（埼玉）

堀越高（東京）2―0宇都宮工高（栃木）

▽準決勝

日大鶴ヶ丘2―0真岡農業高

青木・見城 2（17―15、14―11）0 飯田・石川

漆原 2（15―15、15―10）0 関根

今市高 2（2―15、15―8、15―7）1 堀越高

角田・馬場 2（15―2、8―15、15―10）1 菊池・田島

久郷 2（15―9、15―12）0 山野

▽決勝

日大鶴ヶ丘2―1今市高

青木・見城 1（14―18、15―7、9―15）2 角田・馬場

漆原 2（15―5、15―9、5―15）1 久郷

杉本 2（17―16、15―10）0 文挟

## ◆女子

▽準々決勝

横浜立野高（神奈川）2―1真岡女子高（栃木）

真岡農業高（栃木）2―0前橋東商高（群馬）

昭和学院高（千葉）2―1足利商業高（栃木）

巣鴨女子高（東京）2―1小山城南高（栃木）

▽準決勝

横浜立野高2―1真岡農業高

早川・潮崎 2（15―4、15―10）0 杉山・直井

本多・キケン 1（6―11、12―10）2 藤田・佐藤

村田 2（11―0、11―1）0 佐藤

巣鴨女子高2―0昭和学院高

野口・平野 2（15―11、9―15、15―9）1 目黒・中村

清藤 2（11―4、6―11、12―11）1 森田

▽決勝

巣鴨女子高2―0横浜立野高

野口・平野 2（15―10、15―6、2―15）1 本多・早川

清藤 2（11―2、11―2）0 坂下

## 三試合とも大接戦

〈日大鶴ヶ丘VS今市高〉

ダブルスのスタートは、鶴ヶ丘、青木・見城のペアに凡ミス

# 女子——巣鴨女高が3回目

## ●第23回関東高等学校バドミントン選手権大会

が重なり、今市、角田・馬場が難なくリードしたが、奮起した青木・見城の速攻が小気味よく決まり出し、タイにもつれこんだ。

ファイナルは、両校必死の応援に支えられて一進一退のままセッティングとなったが、角田・馬場は常に先手をとって攻撃。ちょうどリズムに乗ったところがヤマ場で、幸先よい一勝をあげた。

窮地に追いこまれた鶴ヶ丘は、しかも第1シングルスの第1ゲームを落とし絶体絶命のピンチに立った。

しかし、鶴ヶ丘・漆原は、終始冷静なプレーを続け、長いリーチを生かしてよくレシーブし、勝ちにあせる久郷のミスを誘って逆転に成功。会場騒然となる中で、両軍ベンチの明暗もハッキリと逆転した。

第2シングルス、今市の文挟も二年生ながらよく頑張ったが、肝心なところで集中力に欠ける凡ミスを繰り返し、鶴ヶ丘・杉本の軍門に下った。

男子は総体的に見て非力さが目立った。スマッシュのスピードにも重さを感じないのは、基礎的な体力に今一つ欠けるのではないだろうか。技術とは別に、〝荒々しい体力〟も、全国を勝ち抜くための要素ではないだろうか。

**●優勝校日大鶴ヶ丘高・前田耕作監督の話**……予想通りの対戦となったんですが、この大会用のダブルスのペアだったので冷汗をかきました。しかも、漆原は久郷君に一度負けたことがあるので嫌な予感がしたんですが、雪辱してくれて、よくやったと思います。

これからは、ダブルスも元のペアに戻してインハイ予選、インハイに向って精一杯がんばります。

**●準優勝校今市高・別井晃監督の話**……ダブルスはよく頑張ったのですが……。2—0で決めなければいけないケースですね。

第2シングルスは2年生だったわりにはよくやったと思います。まだまだ学校へ帰って走り込み、スタミナをつけなければいけませんね。

## ダブルスが明暗分ける

〈巣鴨女子高VS横浜立野高〉

立野高は準々決勝で優勝候補の一角、真岡女高を降し、勢いに乗って決勝へ駒を進めたが、ダブルスを失ったのがすべてであった。

第1ゲーム簡単に取ったのがわざわいしたのか、優勝を意識したのか、大事な2ゲーム目になると急にコンビネーションがくずれ、巣鴨女高の野口・平野ペアにつけこまれた。

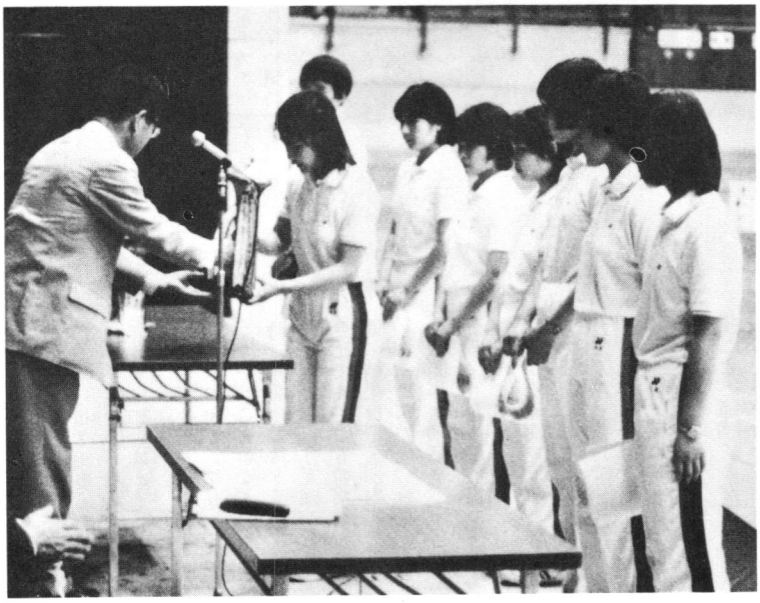
ダブルスの決着がつく前に、隣りのコートで第1シングルスの勝負がついてしまい、ダブルスの行方が雌雄を決するとあってファイナルは双方とも譲らぬ激戦となったが、終始リードを保った巣鴨女高の勝利でピリオドが打たれた。

女子は、どの高校にも優勝のチャンスがあり、まったく混戦だったが、粘り強さという点で巣鴨女高に一日の長があったようだ。

**●優勝校巣鴨女高・宮崎重勝監督の話**……目標は一応ベスト4だったのですが、優勝できたのは、全員が一丸となって戦った無欲の勝利だと思います。昨年までのチームと違い、今年のウチにはエースがいないのですが、それがかえって良い意味でチームワークを生んだのだと思います。

**●準優勝校横浜立野高・杉田博コーチの話**……準決勝までは即席ダブルスで戦い、決勝では本来のペアに戻したんですが……真岡女子高には全力をあげてぶつかり、決勝に進むことができました。優勝は逸しましたが、いい練習になりました。

女子優勝校・巣鴨女子高（東京）



# セブンブリッジで養ったカン

高木紀子

特別寄稿

第四回のユーバー杯に出場した選手達にとって、一九六六年五月二十一日という日は忘れることのできない日である。というのは、あのニュージーランドのウェリントンで、思いがけなくユーバー杯を手にした記念すべき日だからである。

当時、選手団を解団するにあたって、毎年この記念すべき日に必ず再会しようと約束して別れたのであるが、その後の選手達の結婚や出産というめまぐるしい変化に追われ、またそれぞれが地方に散らばっているため、とうとう全員の顔合わせが一回も実現できないまま十一年の歳月が過ぎてしまったのである。

ところが来年は、第八回のユーバー杯があの思い出のニュージーランドで行なわれることになり、しかも皮肉にも、日本は一からの出発という不思議なめぐりあわせになったのを機に、ぜひ第四回の記念会を開こうということになった。

幸い選手達の生活も一段落ついた状態なので、今年を逃がしたら、またいつ実現できるかわからないということで、急きょ全員集合の号令をかけたところ、運よく全員が出席できることになり、五月二十一日の記念すべき日に、思い出の会が実現する運びとなった。

しかし不思議なもので、実際に会が催されるとなると、なんとなく信じられないような気持と同時に、お互いがどんなに変っているだろうかという期待と不安で、落ち着かない毎日であった。

当日は、本田会長や森友副会長はじめ、その当時にいろいろと選手団を応援してくださった方々をお迎えして、ささやかなパーティーをホテルグランドパレスで行なった。集まった方々は、心が通じ合う人々ばかりで、大変楽しく愉快な会であった。

さて、十一年ぶりに集った選手達は、すでに二児の母親（天野さんだけは独身を楽しんでいるが）であるが、会ってみるといつの間にか横山さん、後ちゃんなどという旧姓がとび出し、ツーと言えばカーと答える、あの当時とまったくかわらない楽しい合宿の雰囲気になっていた。なつかしい横山さんの秋田弁などを聞いていると、十一年という歳月がたっているなんて信じられない気持であった。



選手団集合

パーティーの席上では、本田会長やその他の方々からのなつかしい思い出話や、選手達の現況報告があったが選手達のほとんどは、育児が一段落した今は、いろいろな制約はあるが、やはり白い羽根の魔力には勝てず、ラケットをふりまわしているというのが現状のようだ。

また出席者全員の意向として、バドミントンを通じて人間と人間の結びつき、これがスポーツの素晴らしさであるので、ぜひこれを機会に、頻繁に会を開こうということになった。

パーティーの後、選手達は久し振りにセブンブリッジをやろうということになった。あの当時、勝負の勘はトランプで養った、などという冗談がでたほど合宿でやったものだが、はて今回の結果は？……内緒である。

トランプの後、お互いにこの十年間の出来事や、現在の家庭情況まで話し合っているうちに、いつのまにか窓の外がシラジラと明かるくなってしまった。

しかし、お互いにまだまだ語り足りない気持で一杯だったが、主人や子供達が待っていると思うとそうのんびりもしていられず（こんな時ほど女性に生れて損したと痛感するが）今度はいつになるかわからないが、再会の日までお互いに元気で頑張ろうと約束し合ってホテルを後にしたのである。



# みんな二児の母親となり…

## 私はまだひとりヨ 毎日走ってるワ

特別寄稿 ——— 福井正康

### ●毎日走っています

天野　博江

集った元ユ杯選手の中で、唯一の独身。現在、東海女子短期大学勤務。

毎日、学生と一緒にランニングをしているという。音楽にもくわしく、末は教授か？

ユ杯以来、そのバックハンドサービスの正確さは有名である。

合宿で、それまで食べられなかったニンジンを食べられるようになったのは、大きな収穫だったという。

誰一人として心にわだかまりのない、合宿・遠征で、その思い出は、他に比較できないほど楽しいものだそうだ。

### ●バックハンドが得意だった

味蓼とも子（旧姓高橋）

元北辰電機のバドミントン部員だったご主人と結ばれて、二人のお子さんと横浜市の洋光台に在住。

結婚以来、こんなところ（グランドパレスのロビー）へ顔を出すのは初めてとのこと。ご主人のバドミントンへ対する理解が少ないと嘆く。試合にでも出場したら家庭争議でも起こりそうな気配だ。ホレ抜かれて結婚したというエピソードがあり、寸刻も離れられない（？）のか。

天野選手と組んだダブルスで日本に4勝目をもたらした（単3勝複2敗のあと）愛称〝トモチン〟の特技は、堅実無比なバックハンドであり、現役選手にもその域に達している者は少ない。

夜のセブンブリッジでも手堅いところを見せたそうだ。

### ●母校の復活に夢

東条　文子　（旧姓横井）

子供さん二人だが、上のお嬢さん（美樹ちゃん）を連れて高松より上京。上野動物園や東京タワー見物をスケジュールに組み入れているところは〝サスガ〟。

ご主人の東条義昭さんは、立大OBの元全日本チャンピオン。その肝心のご主人は、現在腎臓が悪く入院中という。バドミントンのやりすぎかも知れない。近々退院の予定だそうで、まずはひと安心。

本人は最近、母校、善通寺一高のコーチに就任されたとか、名門復活は間近（？）。

身長1メートル50センチながら、外国の長身選手をバッタバッタとなぎ倒した、冷静、沈着なプレーが目に浮かぶ。

### ●ママさん大会で負けた

樋渡　満子（旧姓横山）

子供二人。昔から現在に至るまで秋田帝石に勤務。

全国家庭婦人大会へ一度出場したが、相手はどうも元ユ杯選手だったことを知らなかったらしく、全然物おじしないプレーにとうとう負けてしまったそうだ。



東条さんのお嬢さんを囲んで談笑

最近、やっと昔のプレーが戻ってきたそうだ。ユ杯ではシングルス専門で活躍した。レフトハンダーである。

ご主人はラグビーの選手であるが、バドミントンは女子供のやるものだと、取り合わないという。いまでもこんな無理解士がいるのだ!!

### ●国体へ出たい

小野　和子（旧姓後藤）

ここも子供二人で、日本人の平均家族構成というところ。

新潟電話局勤務は相変らず、母校では今でも、鈴木明美先生と組んで高校生の相手になるという。

一度ラケットを握ると、子育てなどしていられない（これは冗談）と張り切っている様子。

相沢マチ子、高坂薫など、新潟出身の選手は美人で有名だが、最近はどうだろうか？。

脚力を生かした、スパッとした切れのよいダブルスが身上だが、アキレス腱を大事にしてください。（もし本当に国体へ出るならば!!）

### ●現役に一番近い

中山　紀子（旧姓高木）

現在、横浜市の戸塚に住み、ここもやはり子供は二人。ご主人は北辰電機の元選手。

六人の中では一番現役に近い。何しろ二年前の六月に、ジャカルタの第7回ユ杯決勝で、インドネシアのウタミを2—0で降し、2勝目をあげ、日本の新しいシングルスプレイヤーとして賞讃されたほどだ。

二度も三度も、第一線に引き戻されるということは、日本にとって、喜ぶべきことなのか、悲しむべきことなのか。

# インターハイ出場校・選手一覧!!

高校生の真夏の祭典、全国高等学校総合体育大会バドミントン競技会（いわゆるインターハイ）がいよいよ8月1日から、岡山県倉敷市で開催されます。競技日程と会場は、2日・男子団体戦＝倉敷中央体育館、水島中学校体育館、女子団体戦＝天城高校体育館、倉敷南高校体育館。3日・男女団体戦＝倉敷中央体育館。4日・個人戦男子ダブルス＝倉敷中央体育館、個人戦女子ダブルス＝天城高校体育館、倉敷南高体育館。5日・個人戦男子シングルス＝倉敷中央体育館、個人戦女子シングルス＝天城高校体育館、倉敷南高校体育館。6日・個人戦男女シングルス・ダブルス上位戦＝倉敷中央体育館。

そこで各都道府県協会に出場校・選手を問合せ、出場一覧表を作成いたしました。一覧表の見方は、BT＝男子団体戦、GT＝女子団体戦、BS＝男子シングルス、GS＝女子シングルス、BD＝男子ダブルス、GD＝女子ダブルス。カッコ内の名前は監督名です。ほぼ全国から資料が届きましたが、ここに載っていない都道県は6月23日現在未着のところです。一部不備な点もありますが、あしからずご了承ください。選手諸君の健闘をお祈りします。

**▼秋田県**
BT・秋田市立（安田貞則）
GT・敬愛学園（鈴木祐司）
BS・石井義光（秋田工業・北島健治）
BS・工藤勲（秋田市立）
GS・南都万里子（敬愛学園）
GS・碇子和美（敬愛学園）
BD・石井義光・進藤義和（秋田工業）
BD・佐藤英雄・柴田司（秋田・柴田俊二）
GD・相場哲子・佐藤貴宝子（和洋女子・斎藤侃）
GD・南都万里子・矢田部富美子（敬愛学園）

**▼福島県**
BT・会津工業（山口栄一）
GT・磐城女子（永井祥一）
BS・清野徹也（会津工業）
BS・佐藤一孝（会津工業）
GS・篠崎洋子（磐城女子）
GS・大内美喜子（磐城女子）
BD・鈴木孝征・新田正喜（会津工業）
BD・佐藤一孝・清野徹也（会津工業）
GD・大内美喜子・北山千鶴（磐城女子）
GD・佐藤和歌子・八嶋加奈恵（若松女子）

**▼群馬県**
BT・太田市立商業（金沢正男）
GT・県立前橋東商業（門倉憲一）
BS・茂木英紀（太田市立商業）
BS・中里良昭（太田市立商業）
GS・木暮美代子（県立渋川女子）
GS・井上幸子（県立前橋東商業）
BD・中里良昭・茂木英紀（太田市立商業）
BD・小島正和・小島謙二（桐生市立商業）
GD・藤谷尚子・植原真子（高崎市立女子）
GD・井上幸子・井上美知子（県立前橋東商業）

**▼山梨県**
BT・市立甲府商業（高柳）
GT・私立湯田（薬袋・白倉）

**▼富山県**
BT・高岡商業（二上敏博・善光弘）
GT・高岡女子（六家三郎・塚原孝史）
BS・釣石敏男（高岡商業）
BS・堀田将（福野・高橋征雄）
GS・三田知佳子（藤園女子・石原常正）
GS・金田裕美子（高岡女子）
BD・吉森勝之・辻口裕信（上市・中野登）
BD・伊尾義雄・釣石敏男（高岡商業）
GD・金田裕美子・喜多美恵子（高岡女子）
GD・小山真子・加藤千恵子（富山商業・石原長則）

**▼石川県**
BT・金沢市立工業（河原山晴夫）
BT・県立七尾工業（原栄一）
GT・県立金沢二水（村西一）
BS・坂本昌嗣（金沢市立工業）
BS・清水弘幸（金沢市立工業）
LS・小野順子（尾山台）
LS・宮本深雪（金城）
BD・高橋光一・六川利康（県立七尾工業）
BD・坂本昌嗣・羽田俊哉（金沢市立工業）
LD・松本里子・小野順子（尾山台）
LD・竹原美喜・小路和代（金城）
石川県は昨年男子団体戦で優勝しているため代表二校。

**▼新潟県**
BT・県立三条商業（細山登）
LT・新潟青陵（佐藤秀夫）
BS・鈴木工（加茂暁星・前田清）
BS・山下圭一（県立佐渡・金子正義）
GS・高野和代（新潟青陵）
GS・斎藤桂子（新潟青陵）
BD・中川茂・浜谷智（市立工業・小林賢二）
GD・井上和子・桑野英子（新潟青陵）

**▼京都府**
BT・洛星
GT・平安女学院
BS・西村（京都西）
BS・藤原（塔南）
LS・青山（成安女子）
LS・水野（成安女子）
BD・大藪・藤原（塔南）
BD・水口・星野（嵯峨野）
LD・青山・水野（成安女子）
LD・山辺・吉村（平安女学院）
洛星は7年振り、平安女学院は19年振りの出場。成安女子は13年連続出場していたが14年目に敗れた。

**▼山口県**
BT・柳井工業（三浦捷治）
GT・下関南（岩根達夫）
BS・喜良明文（柳井工業）
BS・川原美信（柳井工業）
GS・浜田真澄（柳井工業）
GS・西川すが子（下関商業・安藤輝夫）
BD・喜良明文・川原美信（柳井工業）
BD・内田典昭・山村和夫（山口工業・川崎満穂）
GD・上利深雪・穂積紀代子（下関商業）
GD・横山雅子・国弘恭代（山口商業）

**▼広島県**
BT・福山市立福山（橋本忠之）
GT・広島第一女子商業（加藤寧之）
BS・和田幸三（福山葦陽・石井実）
BS・大岡康裕（福山葦陽）
GS・三島幸子（広島第一女子商業）
GS・藤山裕美（広島第一女子商業）
BD・瀬戸保夫・内田盛二（福山葦陽）
BD・杉原進・藤下肇（福山市立福山）
GD・三島幸子・藤山裕美（広島第一女子商業）
GD・大迫富美代・藤田久仁子（広島女子商業・寺田晴一）

**▼鳥取県**
BT・県立境港工業（河田時参）
GT・県立米子西（尾沢昇）
BS・岩本影（倉吉東・倉光忠雄）
BS・佐々木亮・境・小谷章公）
GS・太田きよみ（米子西）
GS・岩村由美子（鳥取東・滝本武寛）
BD・佐々木亮・藤川順一（境）
BD・岡本照男・喜多村一彦（境工業）
GD・太田きよみ・細川純子（米子西）
GD・藤岡美保・倉敷裕子（米子西）
県立境港工業は9年連続、県立米子西は初出場。

**▼徳島県**
BT・県立日和佐
GT・県立日和佐
BS・戎野統（日和佐）
BS・山田真吾（徳島市立）
BS・井口利江（日和佐）
GS・大地文子（日和佐）
BD・戎野統・別宮照夫（日和佐）
BD・岸野敏彦・山田真吾（徳島市立）
GD・井口利江・大地文子（日和佐）
GD・篠原ゆり・幾野千代美（富

# 倉敷で会いましょう

## 8月1日～6日 全国高等学校総合体育大会

岡東）

**▼香川県**

BT・県立高松南（岡田敏彦）
GT・県立善通寺第一
BS・中西功（高松第一・岡清秀）
BS・工藤修（高松南）
GS・福岡知美（高瀬・八幡美佐子）
GS・北池ひとみ（善通寺第一）
BD・工藤・藤本（高松南）
BD・香川・今田（高松第一）
GD・北池・片山（善通寺第一）
GD・小野・平田（琴平・喜岡恒雄）

**▼愛媛県**

BT・今治北（村上康彦）
GT・松山東
BS・鳳浩希（今治北）
GS・白石優子（今治北）
BD・鳳浩希・武地享（今治北）
GD・石田さえこ・安部典子（松山東）

**▼宮崎県**

BT・宮崎工業（橋口学）
GT・都城商業（河野真積）
BS・徳地章男（宮崎工業）
BS・小八重道好（宮崎南・中島善彦）
GS・横山ナルミ（都城商業）
GS・一政由子（富島・山内勇紀）
BD・藤原徹郎・徳地章男（宮崎工業）
BD・小八重道好・有馬卓男（宮崎南）
GD・横山ナルミ・吉行法子（都城商業）
GD・水落多瑞子・長友とも子（都城商業）

**▼熊本県**

BT・九州学院（西田淳二郎）
GT・熊本中央女子（工藤勇参）
BS・宮本幸弘（九州学院）
BS・本石俊憲（九州学院）
GS・高峰彰子（熊本中央女子）
GS・相良裕美（八代・徳留一生）
BD・宮本幸弘・本石俊憲（九州学院）
BD・上村秀章・村上英介（九州学院）
GD・野中弘美・高松久仁子（熊本中央女子）
GD・中村美世子・田川春巳（松橋・下田義宣）

**▼長崎県**

BT・瓊浦（樋口隆則）
GT・長崎市立商業（林和男）
BS・勝木由夫（瓊浦）
BS・杉本雅文（瓊浦）
GS・山下もにか（長崎市立商業）
GS・若松登美子（長崎市立商業）
BD・勝木由夫・楠本伸吾（瓊浦）
BD・杉本雅文・橋本浩（瓊浦）
GD・山下もにか・若松登美子（長崎市立商業）
GD・外井ヒトミ・野口由美（鶴鳴女子・春野良三）

**▼岐阜県**

BT・県立岐阜商業（横山泰）
GT・富田女子（野村泰誌）
BS・大橋勝（県立岐阜商業）
BS・前田健二（県立岐阜商業）
GS・田尻章子（富田女子）
GS・原幸子（富田女子）
BD・坂井浩一・長屋良二（岐阜工業）
BD・加藤浩・堀弘之（長良）
GD・田尻章子・原幸子（富田女子）
GD・西村優子・可児純子（県立岐阜商業）

**▼島根県**

BT・県立出雲（布施宏次）
GT・松江家政（松尾益吉）
BS・今若芳之（県立出雲）
BS・美多宏（県立出雲）
GS・昌子弘美（県立松江商業・小林茂）
GS・渡部久美子（県立大東・林康文）
BD・今若芳之・美多宏（県立出雲）
BD・松浦順治・小畑真一（県立松江商業）
GD・昌子弘美・小笹かず子（県立松江商業）
GD・藤原久子・山蔭三枝子（県立松江商業）

**▼大阪府**

BT・府立交野（道端武彦）
GT・四条畷学園（片岡輝明）
GT・薫英（中島輝雄）
BS・本多誠司（府立高津・米谷豊之祐）
BS・山田智嗣（府立藤井寺・山本泰史）
GS・河村茂美（四条畷学園）
GS・原口恵子（四条畷学園）
BD・山田智嗣・森堅次（府立藤井寺）
BD・西野章一・上枝正一（府立西野田工業・藤浪輝吉）
GD・河村茂美・平久美子（四条畷学園）
GD・末兼真弓・北田スミ子（四条畷学園）

大阪府は昨年女子団体戦で優勝しているため二校出場。

**▼千葉県**

BT・中央学院（安彦三千一）
GT・昭和学院（牧野健夫）
BS・福島伸一（中央学院）
BS・志賀直樹（中央学院）
GS・上久保恵美子（昭和学院）
GS・森田桂子（昭和学院）
BD・志賀直樹・福島伸一（中央学院）
BD・佐久間貢・小泉輝之（君津商業）
GD・森田桂子・目黒栄子（昭和学院）
GD・宮崎敏江・上久保恵美子（昭和学院）

**▼滋賀県**

BT・比叡山（藤上良信）
GT・滋賀女子（浜久美雄）
BS・西山博司（比叡山）
BS・矢部忠司（比叡山）
GS・川島直子（大津・沢長寿）
GS・西村美千代（比叡山・服部直子）
BD・西山博司・矢部忠司（比叡山）
BD・山田和樹・沢口達哉（比叡山）
GD・西村依子・川島直子（大津）
GD・森本平子・西村佐和子（滋賀女子）

**▼岩手県**

BT・前沢（大光敏）
GT・千厩農業（千田征志郎）
BS・岩淵裕光（前沢）
BS・金光輝彰（千厩農業）
GS・加藤とよみ（千厩農業）
GS・菅原俊江（千厩農業）
BD・岩淵裕光・阿部清克（前沢）
BD・今野善基・村上力也（水沢商業）
GD・加藤とよみ・佐藤ユウ子（千厩農業）
GD・菅原俊江・佐藤広子（千厩農業）

**▼愛知県**

BT・東海（福岡宣治）
GT・愛知淑徳（伊藤芳樹）
BS・近藤祥夫（半田農業）
BS・大西紀幸（東海）
GS・伊藤多恵（愛知淑徳）
GS・山下千恵子（知多）
BD・大西紀幸・鈴木勝男（東海）
BD・近藤祥夫・尾川克明（半田農業）
GD・伊藤多恵・春山美智子（愛知淑徳）
GD・原田樹・梅村直子（名女大）

**▼福岡県**

BT・山門（平城俊作）
GT・八幡大学附属（高城智子）
BS・目野幸光（山門）
BS・蘭和真（城南・高橋幸三郎）
GS・楢原美奈子（明善・山口勇雄）
GS・井上明子（九州女子・小谷桂一）
BD・古賀蔵・島添静治（山門）
BD・長谷川明夫・佐藤和幸（大川・中島政人）
GD・浦田豊子・西原由美（八幡大附属）
GD・木村由美子・楢原美奈子（明善）

**▼神奈川県**

BT・日大（日向）
GT・県立横浜立野（遠山正暁）
BS・伊藤朗（県立川崎工業・斎藤栄）
BS・松本真（県立横浜立野）
GS・村田純子（県立横浜立野・杉田博）
GS・山田（県立緑ヶ丘・松岡）
BD・西出・玉島（日大）
BD・松本真・飯島敏之（県立横浜立野）
GD・村田純子・潮崎満子（県立横浜立野）
GD・本多洋子・早川真澄（県立横浜立野）

**▼宮城県**

BT・仙台商業（菅原保）
GT・塩釜女子（高橋渉）
BS・渡辺豊範（塩釜・菅原俊夫）
BS・伊藤裕樹（宮城工業・白岩良治）
GS・岩間ゆかり（聖和学園吉田・今野虔）
BS・大場美和子（塩釜女子）
BD・千徳勝利・針生茂寿（仙台商業）
BD・高橋浩・庄子哲郎（仙台商業）
GD・佐々木由美子・岩崎由美（聖ウルスラ・片桐勉）
GD・柿沼恵美・高橋恵美（尚絅女学院・渡部紘一）

〈40ページへ続く〉

# ファッショナブル・スポーツ——バドミントン。

## 厳選された豊富さでお応えいたします。 BADMINTON

ファッション性とスポーツ性——この2つをより合わせ持つファッショナブル・スポーツーバドミントンの感覚を肌で感じにいらっしゃいませんか——！

色あざやかにそして機能性も豊かなウェアやバッグなど——バドミントンのすべてが常にフレッシュな状態でスタンバイ。

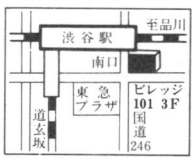
## 日本最大の専門店 ウインザー ラケットショップ。

毎月曜日定休・祝祭日を除く

### 渋谷店

東京都渋谷区桜ヶ丘町1-7(ビレッジ101ビル3階) TEL 03-464-9251 〒150

●営業時間／午前10時～午後7時30分







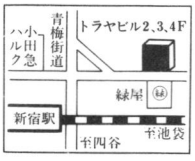


毎月曜日定休・祝祭日を除く

### 新宿店

東京都新宿区西新宿7-10-20(トラヤビル2,3,4階緑屋前) TEL 03-363-6848 〒160

●●●営業時間／午前10時～午後7時









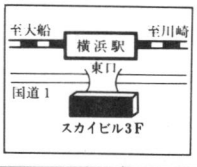
年中無休

### 横浜店

横浜市西区高島町2－1　横浜駅東口

(スカイビル3階) TEL 045-461-1785 〒220

●●●営業時間／午前10時～午後8時




## WINDSOR RACKET SHOP

いま うわさの……




SUPER RUSH

S-76 スーパーラッシュ

極細の特殊加工スチールテーパーシャフト使用。
反発力が一段と増し、抜群の攻撃力が生まれプレーヤーの持っている力を十二分に発揮出来るすばらしいパートナーが出現しました。

play with...
SunBatta

## ㊊ガッツ小島の体当り実戦教室 ―― 3

# 〝スポーツ・キチガイ〟だった

●小島一平

### 懐かしい思い出

毎年、8月のインターハイが近づくと、高校時代を思い出します。

私の高校は、神奈川県の緑ヶ丘高校といって横浜の丘の上にあり、トレーニングには格好の場所にありました。練習は、体育館が4日、屋外でのトレーニングが2日で、週1回は休みというスケジュールでした。

コートの面数は2面。男女共学だったので一面ずつを使って練習していました。私が入学した頃は、すでに2年生の時にインターハイのシングルスに優勝した窪田恵三氏（旧姓岡崎）をはじめ、山本洋彦氏（慶大卒）などソウソウたるメンバーで、中学ナンバー1の私などは、もちろんコートには入れるわけはなく、もっぱら上級生の練習ぶりを見ていたり、グランドを走らされたり、ウサギ跳びをさせられたりで、ラケットを振ることはあまりなかったように記憶しています。たまに振らせてもらえるといえば、体育館の端のネットを張っていない所で、先輩に〝しごかれた〟ものです。しかし、その頃から私は、闘争本能が人一倍あったような気がします。〝今に絶対勝ってやるぞ〟と苦しい練習の中でいつも口の中でつぶやいていました。

### 〝早く倒レロ倒レロ〟

下級生の頃は常に、コートに入ることが夢でした。夏の合宿では上級生がコートに入ると、OBや先輩が入れ替り何人も相手をするので、さすがの上級生もダウンしてしまいます。そうすると私達下級生の出番となるので嬉しくて嬉しくて、内心は〝先輩、早くバテろ〟などと、良からぬことを思っていました。

しかし、実際コートに入ると苦しくて、なかなか思うようにはいかないものだと思ったりもしました。

とはいうものの、私の場合などは大変恵まれていました。環境が良く、伝統があり、強い先輩が他校の選手をバッタバッタとなぎ倒



弘前のインターハイで市内行進（左から2人目が私）

しているのを見て、自分もつい強くなったような気持になると同時に、早く上級生のようになりたいと思ったものです。

上級生が強かったために、随分悔しい思いもしました。1年生の時にインターハイの団体戦、7名のメンバーの中に入れず、先輩に〝嫉妬〟を感じるほどでした。もちろん、試合に出て〝うっぷん〟を晴らすこともできず、



弘前への出発前(右はしが私)

今に、私も背に注目を集める強い選手になるぞ、と誓ったものです。

## 完全燃焼するな!!

今になって高校時代を思い浮かべると、やはり自分自身に対してまだまだ甘い面が多く、ただ本校での練習だけで満足していたように思います。その頃は精一杯やっていたつもりだったのですが……。

というのは、私は野球がたまらなく好きで、他のスポーツ、サッカー、ラグビーなどもそうでしたが、練習の休みの日、また夏休みの余った時間には必ず草野球を楽しんでいました。それが昂じて3年になり主将になると、トレーニングを一時間半ほどで切り上げ、ソフトボールをやったりしました。それでもといってはなんですが、インターハイのシングルスに2位になりましたが、確かに甘い面が多く、悔いは残りました。おかげで楽しい毎日ではありました。

これもやはり、今だからこそ言えるのですが、高校時代はスパルタ、スパルタも時には必要ですが、完全燃焼することなく、何パーセントかは、意欲として残すことも、長い選手生活には大切ではないだろうかと思うのです。それがバドミントンにとって必要な〝思考力〟だと痛切に思わざるを得ません。

都合の良い考え方かも知れませんが、高校時代にスパルタでしぼられるより、多少の甘さはあったけれど、伸び伸びと野球やサッカーに親しんだことが、それからの私の選手生活にどれだけ大きなプラスになったかわかりません。

## 〝スポーツ・キチガイ〟

高校時代に好成績を収める最大の条件は、与えられた時間に集中力を持って練習に打ち込むことでしょう。

しかし、長い選手生活を考えるなら、強くなるための要因を築くことの方がもっと重大なことでしょう。体力しかり、思考力しかり、精神力しかりです。

私の場合、趣味がスポーツで、動くことが好きだったので、自然に体力や運動神経を養うことができ、トレーニングの代りになったように思います。

私が在学していた頃は、比較的〝のんびり〟とした校風で、現在のように受験、受験と騒がれなかったので、運動部にも数多くの人が籍をおいていました。これは何よりも幸運だったかも知れません。

私は、先ほども述べたように、スポーツが好きだったので、体育の時間にサッカーなどをやると、次の授業をさぼり、他のクラスに紛れ込み、そのまま二時間も続けてサッカーをやったりしました。

体育の先生にも、他の先生にも、私は〝スポーツ・キチガイ〟として通っていました。

とにかく、暇さえあれば体を動かして、スポーツをしていたのが、私にとって何よりも大きな〝高校時代〟だったのです。

創刊100号記念
プレゼント企画

## ❶ヨーロッパ選手に見る実戦テクニック 発行

本誌は1969年創刊以来８年を迎え、来年２月には記念すべき100号を発行するまでになりました。これもすべて読者の皆様の暖いご協力とご指導のたまものと、編集部一同感謝しております。そこで編集部では100号を迎える記念といたしまして、いくつかのプレゼント企画を立てました。

まず第一は、別冊**「ヨーロッパ選手に見る実戦テクニック」**の発行です。これは、いまや世界の頂点に立ったヨーロッパ選手のプレーを連続写真によって徹底的に分析し、その強さの秘密をさぐろうというものです。登場する選手は次のとおりです。

**①フレミング・デルフス**（デンマーク）1977年度全英選手権大会男子シングルス第１位、同ダブルス第３位。第１回世界選手権大会男子シングルス第１位。

**②スヴェン・プリ**（デンマーク）1977年度全英選手権大会男子シングルス第３位。第１回世界選手権大会男子シングルス第２位。1975年度全英選手権大会男子シングルス第１位。

**③トーマス・キールストロム、ベント・フローマン組**（スウェーデン）1977年度全英選手権大会男子ダブルス第３位。第１回世界選手権大会男子ダブルス第３位。1976年度全英選手権大会男子ダブルス第１位。

**④マーガレット・ロックウッド**（イギリス）1977年度全英選手権大会女子シングルス第３位、同ダブルス第２位。第１回世界選手権大会女子シングルス第３位、同ダブルス第３位。1973年度全英選手権大会女子シングルス第１位。1974年度全英選手権大会女子ダブルス第１位。旧姓ベック。

そして、以上のヨーロッパ選手のプレーをわが国の第一線プレーヤーが実戦に即して具体的にわかりやすく解説します。解説陣は次のとおりです。

①小島一平（ラケットショップ元町）②池田信孝（電電東京）③栂野尾昌一（ヨネックススポーツ）④尾崎幹雄（電電東京）⑤銭谷欽治（河崎ラケット）⑥飯野佳孝（ヨネックススポーツ）⑦土田証雄（電電東京）⑧湯木博恵（河崎ラケット）

本書の体裁はＢ５判（バドミントン界と同じ大きさ）で48ページ、うちカラー４ページ。発行日は７月25日で定価は500円です。

**「ヨーロッパ選手に見る実戦テクニック」**はバドミントン界定期購読（７月号現在）の皆様には無料でお送りいたしますので、どうぞご期待ください。なお、自動的にお送りする部数は、ご購読いただいているバドミントン界と同じ数になりますので、それ以上ご希望の場合は有料となります。

追加ご希望の方は、ハガキに**「ヨーロッパ選手に見る実戦テクニック**希望」と書いて、部数明記のうえ編集部あて他の用件とは別にお申し込みください。

## ❷会員ステッカー発行

本誌創刊以来、読者の皆様から“会員証あるいは会員バッジをつくってほしい”というご要望が多くありましたが、このたび100号記念プレゼント企画のひとつとして、右下のようなシャレたステッカーを発行いたします。

銀バクにスカイブルーとホワイトで欧文・シャトルをあしらったもので、デザインは野間義剛さんです。このステッカーは別冊**「ヨーロッパ選手に見る実戦テクニック」**をお送りする際に同封いたしますが、さらに追加をご希望の場合は一枚につき50円切手４枚を同封のうえ編集部あてお申し込みください。

ラケットケース、キャリングバッグなどに貼ってください。このステッカーを貼った人をみかけたら声をかけてください。みんな仲間たちです。

## ❸ユーバー杯奪還への道贈呈

バドミントン界が創刊されたのは、1969年、日本がユーバー杯の初防衛に成功した年でした。それから８年がたち、ユーバー杯はインドネシアの手に渡り、いまわが国は再び追う立場となりました。そこで100号記念プレゼント企画のひとつとして、またユーバー杯奪還をめざす意味で、別冊**「ユーバー杯奪還への道**―第７回世界女子バドミントン選手権大会記録」をご希望の方に差し上げます。ご希望の方は、郵送・発送費として一部につき50円切手４枚を同封のうえ、他の用件とは別に編集部あてお申し込みください。

本書は昨年発行以来、多くの人々に読まれ、第７回大会の全記録、観戦記、奪還策などを美しい写真とともに満載した好評書です。残部に限りがありますので、この機会にお早めにお申し込みください。

お申込み
お問合せは **バドミントン界編集部** 〒150 東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館内

carlton

# New Badminton Racket




●PHOTO カーボニック・ブラック

●PHOTO ニュートーナメント




## 威力壮烈!

20世紀最後の素材といわれる理想の繊維カーボン。繊維に対して直角の方向に、驚ろくべき強さをもち●たわみに富む●するどい弾性とすばやい反発力を生む●しかも耐久性に強い……という最高の条件を備えています。

metro

総発売元 メトロレジャー株式会社 〒101東京都千代田区外神田5－6－4 ☎(03)833－3661(代)

# 1977年:
# バドミントンに
# 革命!

わずか15g しかないカーボン・スチール・シャフトがバドミントンの常識をすべて覆しました。驚異的なシャフトの弾性とすばらしいバランスでシャトルコックを自由自在にコントロールします。打った瞬間、その違いがはっきりと手に伝わります。今、プレヤー達に絶賛の声を浴びてカールトン&メトロの技術が勝利を手中におさめました。

## カーボニック シリーズ

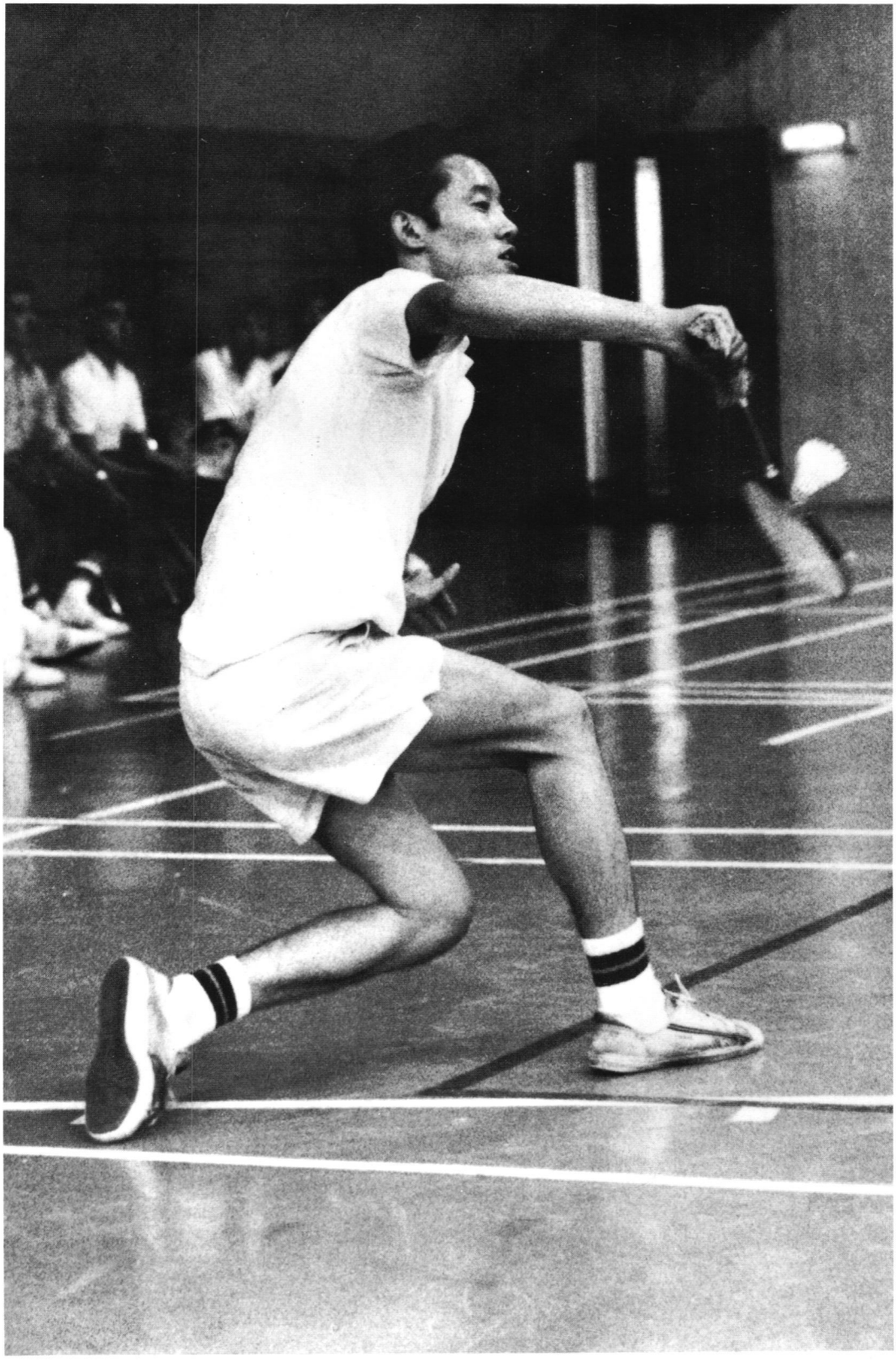
## 新発売

# 話題騒然、カーボンでこの価格!




総発売元 メトロレジャー株式会社
〒101東京都千代田区外神田5－6－4 ☎(03)833－3661(代)

# 関東高校バドミントン選手権から



しぶといプレーで責任を果たした杉本（日大鶴ヶ丘）

負け知らずで決勝に臨んだ青木・見城（日大鶴ケ丘）

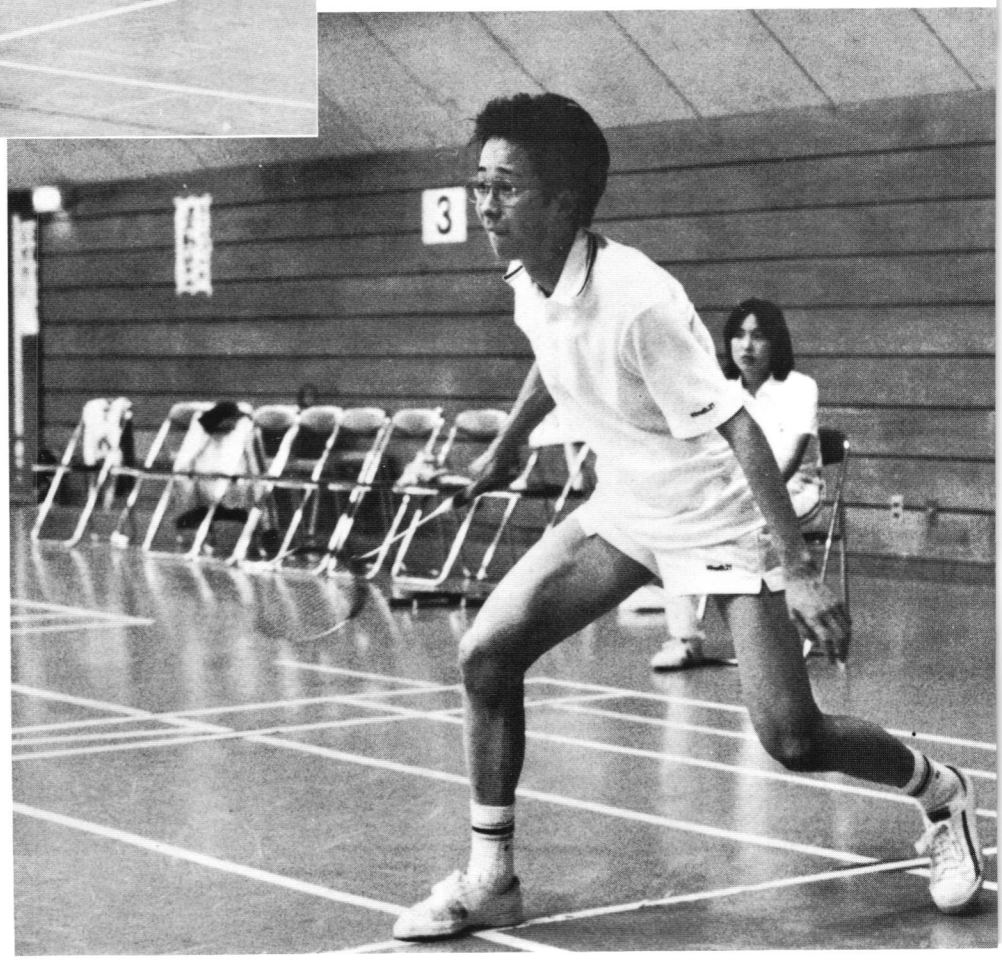
劣勢をハネ返し、貴重なポイントをあげた野口、平野（巣鴨女高）





ポイントゲッターとして活躍した巣鴨女高・清藤

逆転劇の口火を切った 日大鶴ヶ丘・漆原






ON RACKET

TW

das®

®

お求めはこの看板のお店で

製造業者 KG 兼松江商株式会社 発売元 KSQ 兼松スポーツ用品株式会社

〒532 大阪市淀川区木川東2-5-3 ☎06-305-1431
〒101 東京都千代田区内神田1-11-13(橋本ビル) ☎03-295-5611

# バランスの良さ。なじむグリップ。この軽さ。
# デビューが待たれたadidas®の1本1本。

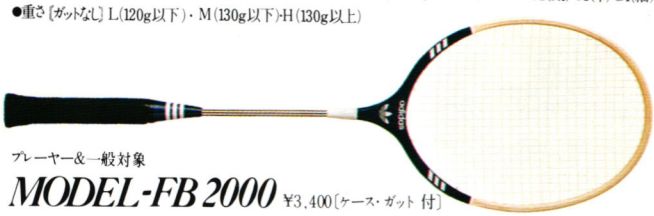
スポーツシューズを始め、スポーティンググッズの幅広い分野で今や世界を独走するadidas®。そのスポーツを知りぬいたadidas®から、いよいよ、バドミントンラケットが待望久しいデビューです。素材の持ち味をくまなく生かした各パーツ。バドミントンを徹底科学した機能的なフォーム。もちろん一流プレーヤーの『ここをこうしたい』という熱望をすみずみに取り入れての登場です。パワーとテクニックを見事に両立させた最新鋭の1本1本。いち早く馴染むのがライバルを泣かせる秘訣。



トッププレーヤー対象

## MODEL-FB 1000 ¥5,400〔ケース付・ガット別〕

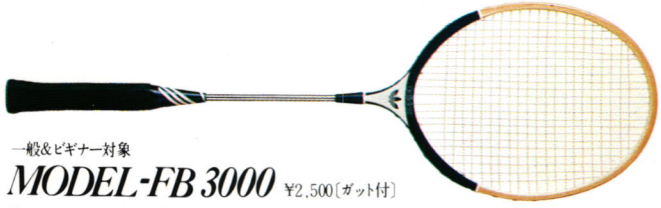
⊙テーパードシャフト 先細・手元太でロングなシャフト。思いきり振りきれ、素晴しい球離れが特長です。⊙フレーム 柔軟性と剛性をあわせもった合板フレーム。ガットが張りやすく、同時にガット張りによる変形がないのが決め手です。素材は特に厳選された高級木質材。⊙グリップ 手にしっくりと馴染む高級牛皮グリップ ●グリップサイズ G2(太)・G3(中)・G4(細) ●重さ〔ガットなし〕L(120g以下)・M(130g以下)・H(130g以上)



プレーヤー&一般対象

## MODEL-FB 2000 ¥3,400〔ケース・ガット付〕

⊙ストレートスティールシャフト ⊙フレーム やはり強度と柔かさを兼ねそなえた合板フレーム。吟味された高級材質の堅さがラケットの変形を防ぎます ⊙グリップ 牛皮を使用し触感、密着感に優れています。● グリップサイズ G3のみ ●重さMのみ



一般&ビギナー対象

## MODEL-FB 3000 ¥2,500〔ガット付〕

⊙ストレートスティールシャフト ⊙フレーム 丹念にセレクトされた木質素材の合板フレームで強度を確保しました。⊙グリップ グリップには手に馴染みの良い牛皮を使用 ●グリップサイズG3のみ ●重さMのみ

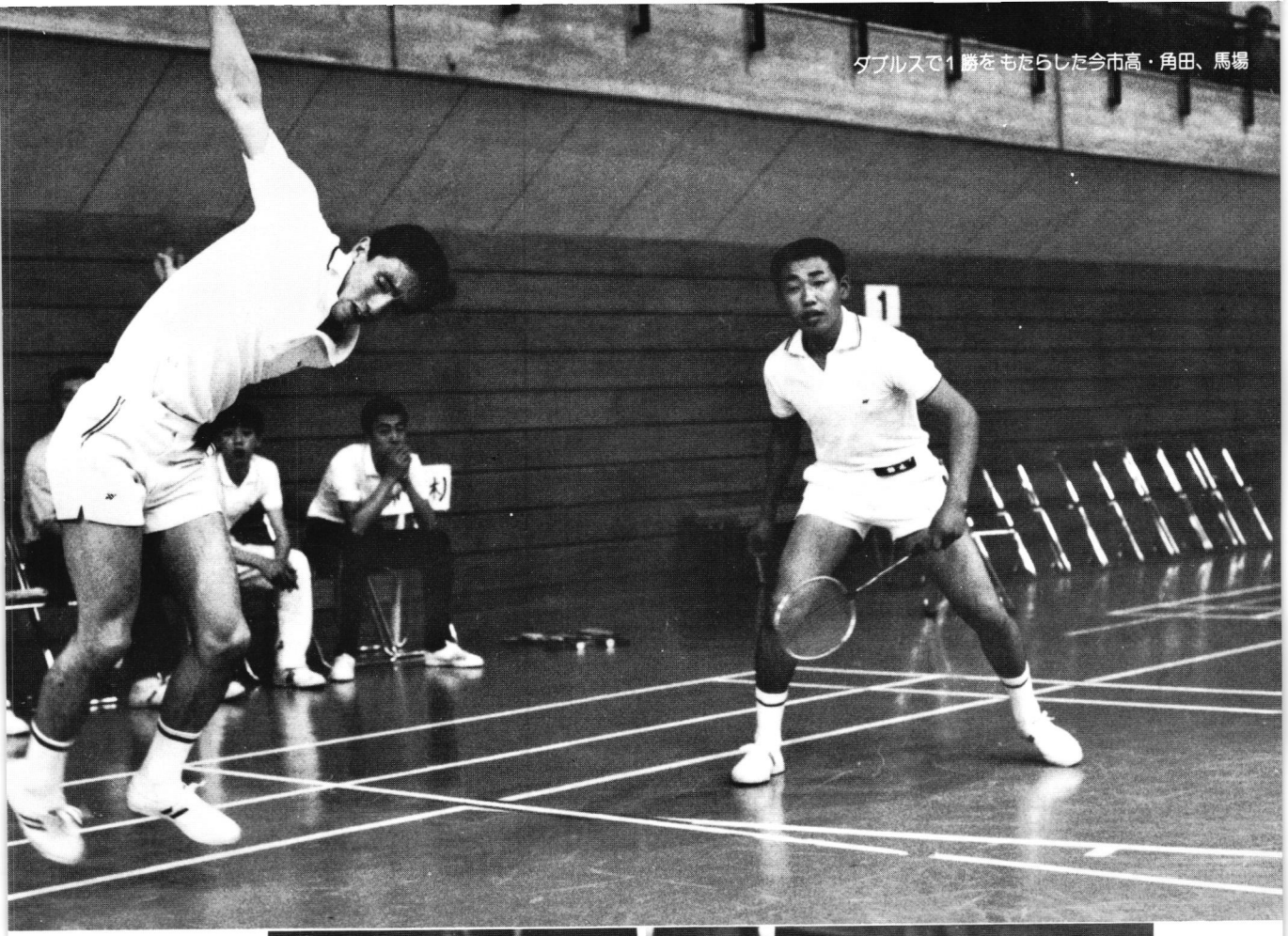
BADMINT

NE

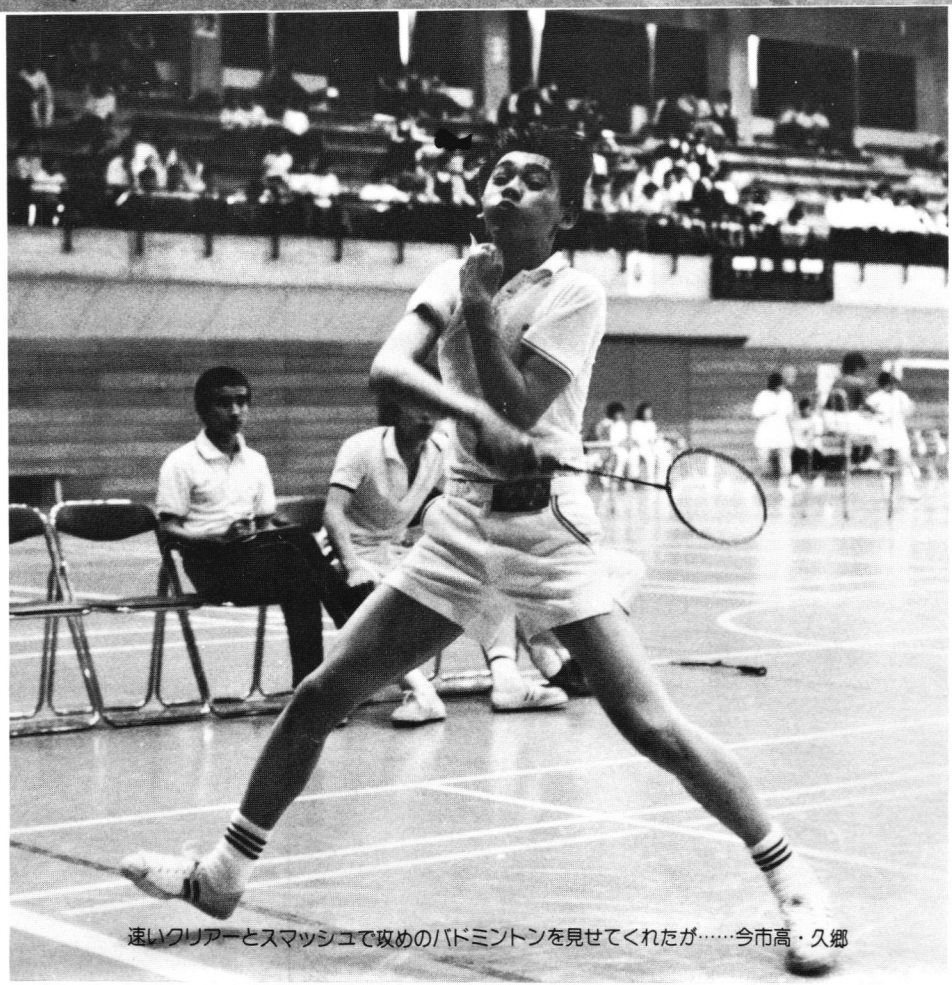


adi

MADE UNDER ADIDAS LICENSE



ダブルスで1勝をもたらした今市高・角田、馬場



速いクリアーとスマッシュで攻めのバドミントンを見せてくれたが……今市高・久郷

惜しい星を落した本多、早川（横浜立野高）

「ウレシーィ」「クヤシーィ」戦い終えて握手をかわす、巣鴨女高（左）と横浜立野高

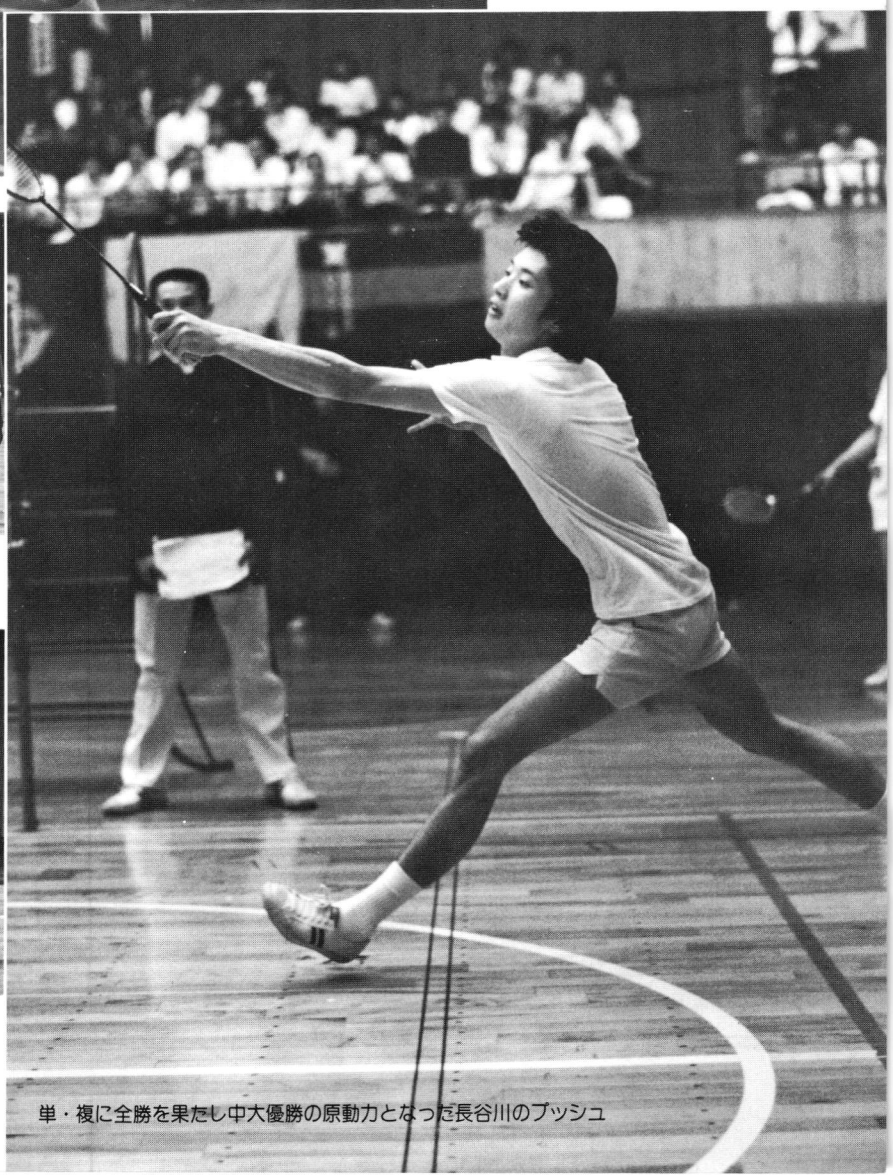
# 関東学生春季リーグ戦から


キャプテンらしい落ち着いたプレーを見せた中大・西村

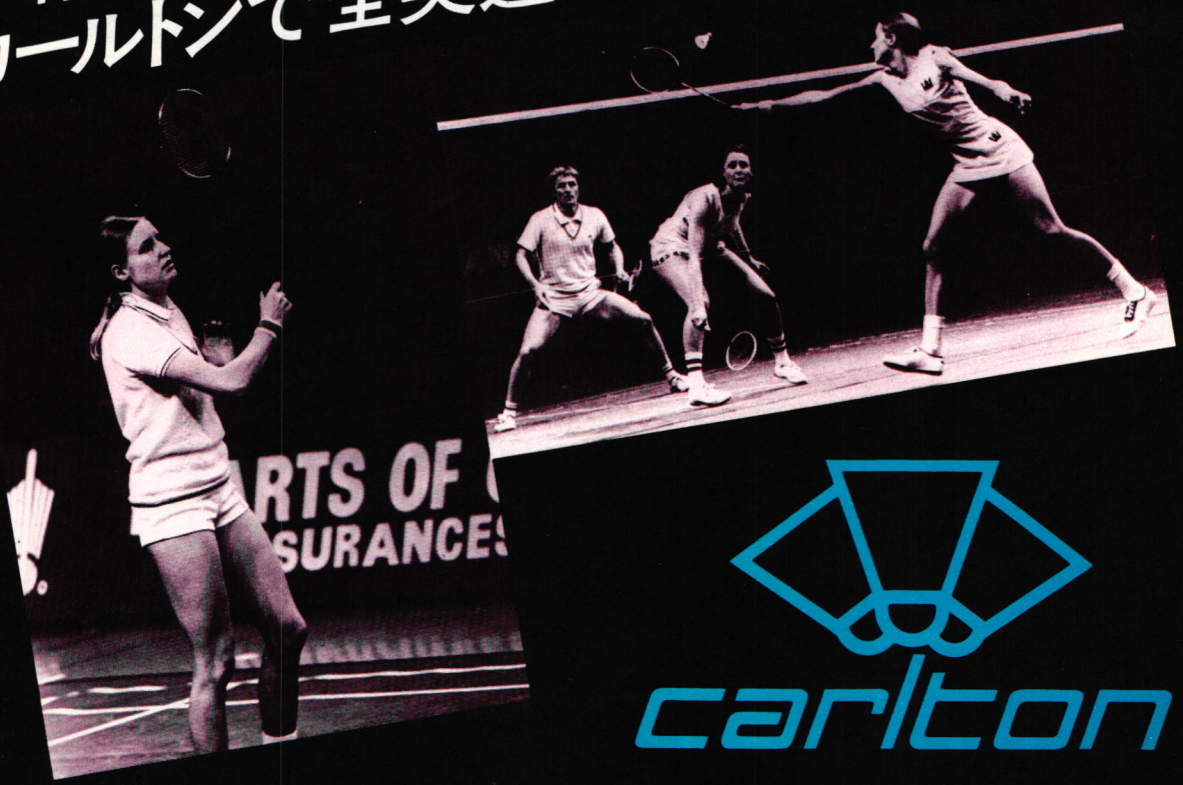


中央大学

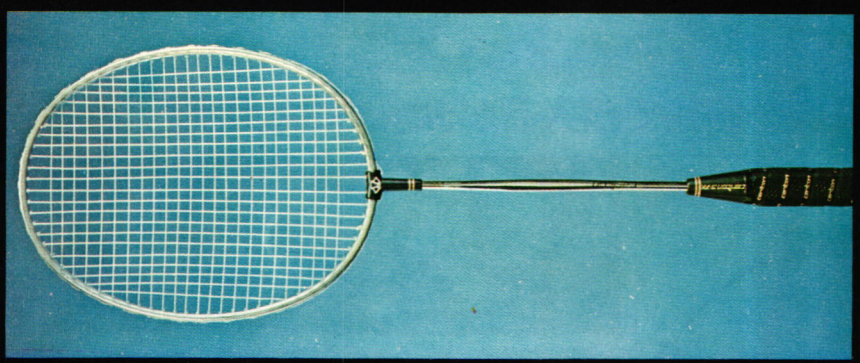

日本女子体育大学


単・複に全勝を果たし中大優勝の原動力となった長谷川のプッシュ

# ご存知、ギルクス夫人。
# カールトンで全英選手権3種目制覇!!




carlton

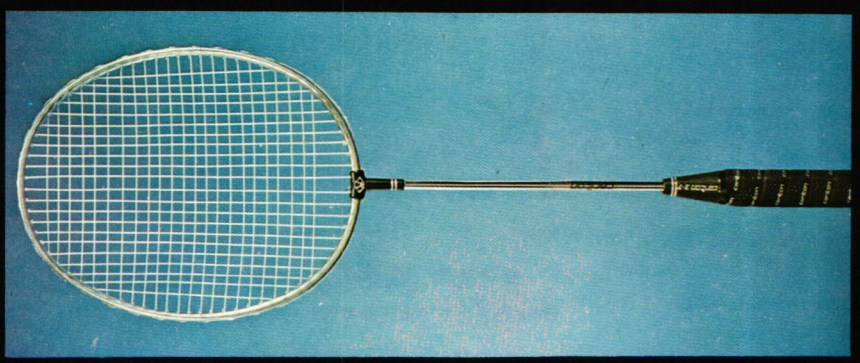


## carlton 3.7X

**¥9,500**

(カバー付)

ステンレスフレーム フラット・シャフト使用



## carlton 3.7

**¥8,500**

(カバー付)

ステンレスフレーム テーパー・シャフト使用

metro

総発売元 メトロレジャー株式会社

〒101東京都千代田区外神田5－6－4 ☎(03)833－3661(代)

from carlton England

# 1,000,000

カールトン・ナイロンシャトルの年間生産量です。

ニュートーナメント

1個

¥280





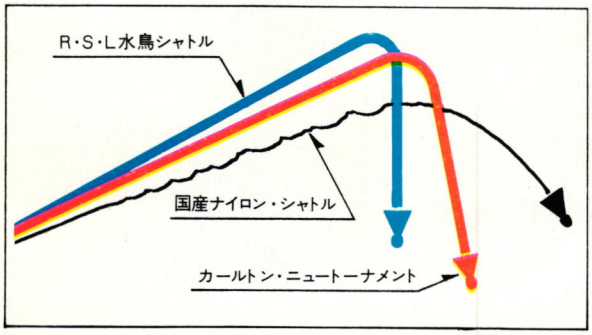


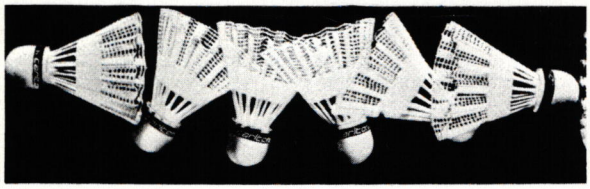
インターナショナル

1個

¥220

だから、こんなに安い価格で輸入品がお求めになれます。



ニュートーナメント：ターンオーバーがはやい。

左の図は、シャトルの飛行線を表わしたものです。カールトン・ニュートーナメントが水鳥シャトルの飛び方にいかに酷似しているか、おわかり頂けると思います。

しかも、国産品とは飛びが違います。

総発売元 メトロレジャー株式会社
〒101東京都千代田区外神田5－6－4 ☎(03)833－3661(代)

だから

# シャトルコックならカールトン

# お知らせ

## ネクタイピン、バッジを頒布中

4月号でお知らせしましたが、日本バドミントン協会創立30周年を記念して製作しましたネクタイピン、バッジをご希望の方に頒布しております。

バッジは二種類用意いたしましたが、そのうち日の丸つきバッジと、デラックスバッジは売切れとなりました。

したがって現在お分けできるものは次の二種類だけです。

◇**ネクタイピン**＝銀色のシャトルに金色でNBAの文字を配したもの。800円

◇**普及型バッジ**＝同じデザインのネジ止式のもの。500円

どちらもプラスチックケース入りです。

ご希望の方は、ハガキでバドミントン界編集部TB係あてお申し込みください。折り返し振込用紙同封のうえお送りいたします。なお送料は実費をご負担いただきます。

また、整理の都合上、他の用件とは別にお申し込みください。

## 転居の通知はお早めに

最近、「転居先不明」「宛先に尋ねあたりません」とハンを押されて戻ってくる本誌が目立つようになりました。

引越しされる場合はお早めに編集部あて、旧住所と新住所を明記のうえハガキでご連絡ください。

また未着の場合もハガキでご連絡ください。

アパート、寮やマンションにお住いの場合はとくに詳しく住所をご記入ください。

お手数ですがよろしくご協力をお願いいたします。

◆真夏のビッグ・イベント◆

# 全日本男子オールスターダブルス

真夏のビッグ・イベント＝全日本男子オールスターダブルスは、今年で3回目を迎え、左記の要領で開催されます。

この大会は、わが国のトップランクのダブルスが一堂に会し、ダブルス日本一の座をめざして闘うものです。

酷暑の中、スピードとパワーにあふれるプレーを次々と展開してくれるはずです。

出場予定選手は次のとおりですが、多少の変更もありますので、順次詳細を誌上で発表していきます。

真夏の大会ですので、観戦も暑さ覚悟となりますが、ふるっておさそいあわせのうえご来場ください。

▼第3回全日本男子オールスターダブルス出場予定選手

**①池田信孝**（いけだのぶたか）法政大卒・日本電信電話公社・昨年度全日本男子ダブルス1位。

小柄ながらカンのいいプレーと前陣速攻、レシーブ力の強さは抜群。

**②梅野尾昌一**（とがのおしょういち）・法政大卒・ヨネックススポーツ㈱・昨年度全日本男子ダブルス第3位。

海外遠征で着実に力をつけ、世界のランクにも顔を出すようになった。攻撃力は〝若獅子〟の異名にふさわしい。

**③飯野佳孝**（いいのよしたか）日本大卒・ヨネックススポーツ㈱・昨年度全日本男子ダブルス第2位。

細身の長身からのスマッシュは非常に強い。スタミナもつき、頼もしい。

**④土田証雄**（つちだまさお）日本大卒・日本電信電話公社昨年度全日本男子ダブルス第2位。

サウスポーから鋭角的スマッシュと守勢を攻撃に切り返す早さは一流。

**⑤尾崎幹雄**（おざきみきお）中央大卒・日本電信電話公社昨年度全日本男子ダブルス第3位。

長身からの迫力あるスマッシュが魅力だが、体のわりには小技もうまい。

**⑥銭谷欽治**（ぜにやきんじ）中央大卒・河崎ラケット工業㈱・昨年度全日本男子ダブルス第3位。

海外遠征で着実に力をつけ、世界のランクにも顔を出すようになった。攻撃力は〝若獅子〟の異名にふさわしい。

**⑦西村正美**（にしむらまさみ）富山商業卒・中央大4年。

**⑧長谷川博幸**（はせがわひろゆき）・福井勝山高卒・中央大3年。

西村・長谷川のペアは学生界実力ナンバーワンであり、精神的モロさが消えればトップグループに顔を出すこともできる。

以上の予定選手のほか、全国高等学校体育大会（インターハイ）、全日本教職員選手権大会の上位進出ペアも出場の予定。

▼日時＝8月28日（日）時間未定。

▼会場＝国立競技場代々木第二体育館

▼入場料＝未定

▼お問合せは、日本バドミントン協会（03―467―3111）へ

# エツコのバドミントン・ライフ②

# ポコンと力こぶが…

栂野尾悦子

かぼそくて今にも折れてしまいそうな足をしていた私も、身長だけはみるみる伸びて中学の三年間に21センチ、卒業の頃には158センチと人並みに追いつきました。それと共に体も丈夫になり皆出席だったのもバドミントンのお陰と思っています。心の方も少しずつ大人へと成長していたのでしょう。というのは、今思い出すと、よくまあ、あんなささいな事で悩んだものだと……。

それは、小さな頃、私とすぐ上の兄とは一〇歳離れていて、それをいいネタに、いたずらをしたり、言うことを聞かなかったりした時は、家族ぐるみでこういうのです。「お前は、橋の下から拾ってきてやった子なんや」と。表は真顔で、内心はニヤニヤしていたのも知らず、そのたびに本気になってしまったものです。

ある日あまりにもいたずらがすぎて真っ暗な蔵の中へとじこめられてしまいました。『本当の親ならもっとやさしいにちがいない。きっとどこかにいてくれる。家出して捜しに行こう』と決心したのです。ところが何も見えない真っ暗な蔵の中から〝おばけ〟が出てきそうでとうとう泣き出してしまい、声を聞いたおばあちゃんから扉を開けてもらった時は安心のあまり家出のことはそっちのけになっていました。

そんなことが何度かあるうちに中学に入り、毎日のバドミントンや新しい生活が楽しくて、いつの間にか忘れてしまっていました。

私達の頃はまだ全国大会がなく、県大会に出ることが一番の目的でした。先生のあだ名は『お馬ちゃん』その名のとおり顔が長くてもやさしい目の先生でした。先生の指導は決して怒らず気長に根気よく教えてくれ、いつの間にか打てるようになっている感じで、一年の夏休みまではコートに入れてもらえず、毎日素振りと壁打ち、少しばかりのランニングとトレーニングが日課でした。上級生の練習を見ると、いとも簡単そうに歯切れのいい音を響かせているのです。自分もすぐやれそうな気がして早く打ちたくて、シャトルを打つ日がどんなに待ち遠しかったことか。夏休みの終わり、ようやく初めてコートに入れてもらった時は、まるでスターになったような気分でコートをながめ回しました。情景を今私は昨日のようにはっきりと思い出せます。「エツコのバドミントン・ライフ」のはじまりです。先輩達のように格好よくバシッと打ったつもりなのにちっとも前に飛んでいません。うまく打とうと力んでしまうばかりで、まっすぐ飛ばなかったりガサッとシャトルの羽根の部分に当たる始末。見るのとやるのでは大違いなことをよくよく知った初打ちでした。

うまくいかないとなるとよけい挑戦したくなる性分の私です。クラブの時間になると体育館にかけ込んで、まっ先にネットを張り、チョークでコートのライン引きをして先輩を待ちます。

当時、どの運動クラブも県大会の上位を占めていたので、小さな体育館は、剣道の竹刀のぶつかり合う音や、ピンポンの弾む音に負けじと力一杯スマッシュを打って張り合った

ことを覚えています。
私のパートナーは『フクちゃん』といって二人ともやせっぽち。他の人の手や足にポコンと出ている力こぶ(筋肉)がうらやましくて仕方ありませんでした。フクちゃんは決して人の悪口やぐちをいわない温和な性格で、私もそうなりたいと思ったことを今でも心がけているつもりです。
思春期頃(あったのかな?)は、ちょっとした事にも感激したり、動揺したり、片想いの人と何回目が合ったとか、どうしたらわかってくれるだろうなんて友達とあれこれ悩んだり、それなりに真剣だったのでしょう。
そうそう、入試めざして猛勉強!!というのは体のいい口実で、世界中が髪振り乱すほど熱狂的なセンセーションを巻き起こしたビートルズを聞くために、毎晩ラジオにかじりついていたのもあのころ。大好きな「イエスタディ」を聞くたびになつかしく思い出します。
さて、高校に入ると、バドミントンが今までと違った感覚で私におそいかかってきました。一年の夏合宿のことは忘れようにも忘れられません。
県体育館でのうさぎ飛びの距離が、何と長かったことか。手押し車で、しまいには一歩がどうしても出ずガクンと折れてしまうのに、先輩は手を離してくれず、うらめしそうにずっと向こうのゴールを見やったこと。一往復するたびにハーハー荒い息をこらえる。
バドミントンとは楽しくて仕方のないものとしか知らなかった私には、あの棒のような細い体に体力などあろうはずがなかったのです。「もうダメだ。何て弱いんだろう。もうかんにんしてほしい」体力もなく貧血症の私は特に夏は弱い。生まれて初めて体験したつらさであったと、その記憶がまざまざとよみがえってきます。
それじゃなぜあの時苦しくってやめてしまわなかったのでしょう。そう、合宿中の早朝のランニング、死ぬ思いをしたトレーニングやノックに声がかれてもコールしてくれるかけ声に元気づけられたこと。宿舎のお寺に帰って食事当番が作ってくれる夕食を口にする時の安らぎ。ミーティングで正座させられ、先輩やコーチから叱られたこと。その後で食べる冷たいスイカや水ようかんのおいしかったこと。ゲンキンな私は、きっとこんな時間の楽しさにつられてがんばったに違いない。先輩達の「みんなきついんや、お前らだけでないんやぞ」という言葉が今にも聞こえてきそうです。


中学生時代の私(いちばん左)

こんな先輩達にあだ名をつけてしまいました。男の人には「穴田のおっちゃん」女の人には「正来のおばちゃん」というふうに。
そうして夏が過ぎ秋の空が高く澄む頃には、ほんの少しだけ、あんなにうらやましかった筋肉らしきものが手や足にくっついてきました。体重計の針が50kgを指した時は一人前になったようで何ともホクホク嬉しかったものです。一年の頃は、インターハイというものがどんなものなのか全く見当がつかず、日本中の高校生が最大の目標にしていることなど知るよしもありません。私にとっては金沢市の大会や、県新人大会が一番大きな試合だったのです。
毎朝、高松駅を六時七分の汽車(今だに電車を汽車といって笑われます)に乗って通学していました。朝寝坊をしてごはんを食べれない日は、母が大きなおむすびを二個持たせてくれ、数人しか乗っていないガランとした汽車の中でモグモグほおばったものです。それがおいしいんです、とっても。
学校に着くのが七時半すぎ。一年13Hのクラスにも、陸上、バスケット、ハンドボールetcのクラブ員がいて、毎朝近くの野田山までランニングをしていました。夏合宿で体力のなさを知った私は、二学期から一緒に仲間に入れてもらったのです。さてそれからは……。
(次号へつづく)

# 普及に思うこと

●日本バドミントン協会指導委員長――伊藤基記

## 『過熱』にブレーキを

日本のバドミントンは今一つの大きな転機に立っているように思います。

内外の行事は、花盛りです。もうこれ以上、大会などの要項をつくりださないでほしいと悲鳴をあげているところもあるようですね。

まだこれから、ボツボツというところも残ってはいるのですが、それらの普及は別として、バドミントン協会は、今実際のところ、手一杯のスケジュールをかかえこんでいるように思います。

量よりも質の方向にすべてを切り換えてゆく必要があると思います。海外遠征はともかく、国内の諸大会などは、出場選手を国体のように、予選によってしぼる必要がでてきているようです。やってさえいれば誰でも全国大会に出られるというのも、普及の初期の時代はそれでよいとして、これからはまず近隣の切磋琢磨を通して、登竜するというのが本筋ということにしなければと考えています。参加者の数だけで、目尻をさげているわけにはいかない時代がきていると思います。

「ブーム」になることはうれしいことにちがいありませんが、これには必ず「反動」があることを計算にいれる必要があります。

「猫も杓子も」ということになった、いわゆる流行もので長続き（そのブームそのものが）したためしはありません。

ブームそのものには実は陥し穴がいくつもあります。

第一に『過熱』したエンジンはいわゆるやけつきをやるということです。この過熱は個人的にも集団的にも、精神的にも、肉体的にも、経済的にも起りやすいものです。

個人的には多少無理がくるのは当り前のことで、その無理による摩擦が、本人を磨きあげていくことは、いずれの世界にもいえることですが、家庭経済にあまりにも負担をかけすぎるとか、学業をほとんど捨ててしまうとか、身体的に故障してしまうなどの結果に陥って、脱落してしまう人が、目立たぬところで案外に多いことを忘れてはなりますまい。

団体には、世界的な組織から、各国協会、各県支部……各チームまで流れがありますが、役員になった人々の負担が過重になっているところもあるようです。なかには、役員になった人の権勢欲の過熱がブレーキになっているのではないかと心配されるところもあります。

アマチュアの団体であることを強調する場合がしばしばでていますが、これはアマチュアの域を逸脱しかける懸念がでているから強調されるのであって、そのスポーツをすることによって（マネージメントをしたり、プレーをしたり）生活しているわけではないのに、生活のためにかける、時間的、肉体的、経済的エネルギーよりも遙かに重いものを背負ってしまう場合もでてくるのではないでしょうか。

役員にしても、選手にしても十分に力の発揮ができる組織とか、その組織の運営ということでは、まだまだ多くの問題が残っているようです。

どんどんPRして、拡げなければならぬ地域や階層があるかと思えば、過熱をおさえて、交通整理をしなければならない地域、階層もあるというわけで、複雑なこと、整理を必要とすることが続出しているのが、日本のバドミントン界の現状かも知れません。

大変、抽象的な表現で、何のことかわからない読者の方も多いかと思いますが、何年ぶりかに、指導委員長にかえってみて、

# 成績にとらわれるな

一方ではあおりたてながら、他方では水をさすような、複雑な心境であることを否定できません。しかし、これも一つの過渡期的現象であり、大きな転機＝前進・充実の転機であるように仕向けなければと考えています。

日本のバドミントンの世界で、最近の特に目立った動向の一つとして、小中学生、家庭婦人などの台頭をあげることができます。

このことは、私だけでなく、日本のバドミントンの指導層が永年にわたって、提唱というより、願望をこめた、推進テーマとして、強調しつづけてきたことなのですから、うれしいことにちがいありません。

明かるい希望をいだかせるに十分な材料なのですが、私は一部にみられるいわるるブーム的な膨張現象には、無制限にほおをゆるめ、目尻をさげているわけにはいかないと思っているのです。



せっかく繁昌しかけているのに水をさすようなことをいうなとお叱りを受けるかも知れませんが、大会に何百人集って、うれしい悲鳴をあげたとか、大会で好成績であったとか、それ自体はその地域にとって、実際うれしいことであり、希望をもたせることなのですが、先頭グループ？的存在の方々には、この辺で、一歩踏みとどまって、じっくり想を練ってもらいたいと思っています。

小、中学生の時に、大会で好成績をあげたから、将来、必ず世界的大選手になれるとは限らない。いや高校時代でも、試合に勝てばよい一点張りになってしまうと、さき伸びのしない選手をつくってしまうきらいが十分にあるのです。

ことに小学生時代から、バドミントンだけをやらせる。とにかく優勝させるのだと、日夜、特訓をするという場合には、基礎的な体力や、心構えや、技能をその年齢に応じて、伸ばしておいてやることがことに大切であるということです。

高校や大学の選手の練習振りとあまり変らない方法でも、小中学生は結構ついてくるし、試合に好成績をあげることができます。その場合、基礎的な体力、すなわち、歩、走、跳、投、打の力、けんすいの力、リズムにあわせて体を動かす感覚、転回運動……すなわち、学習指導要領として学校体育の中に組み込まれているような運動を、半ば放棄したようにエスカレートすると、これはとんでもないことだということをいっているのです。少し、極端な意見をいわせてもらうならば、小学生時代はラケットの長さを覚えて、ひととおりストロークをこなせば、そのあとは、ゲームにうつつをぬかすよりも、走ったり、跳んだり、投げたり、捕えたり、陣取り、鬼ごっこや軍艦遊びのようなものをうんとやっておいてもらった方が、中学にいってから、伸びるように思います。

誤解しないようにして下さい。小学生からバドミントンはするなといっているのではありません。ただ、シャトルを打ち合うことだけに、時間とエネルギーを費やして、試合成績だけに気をとられていると、大成するものも大成しないと警告をしているのです。

トップグリープにあがっていて、この人にもう少し、基礎体力があったら、まだまだ伸びるのに、惜しいなあと思われる選手がたくさんいますよ!!

そうして、その基礎体力は成人してからでは、なかなか養成しにくいものです。幼少の頃から、技術と併行して営々と築いた体力こそ、最終の勝利をおさめる原動力であることを、指導にあたる方は再認識をしてもらいたいと痛感しています。成人してからは、むしろ、体の部分的疲労をどうしたら取り除くことができるか……に深い関心を寄せるべきであると思います。

勝負の世界はきびしいですね。よい仕上げをするためには、よい基礎が必要です。その基礎とは何か。じっくり考えて、取り組む時代が、訪れていると思います。

# 昭和52年度関東学生春季リーグ戦・結果

# 中央大（男子）日本女子体育大（女子）が全勝優勝

昭和52年度関東学生春季リーグ戦は、板橋区体育館において4月30日、5月1日、4日、7日、8日の5日間熱戦がくり広げられた。

低迷する学生界の暗雲を吹き飛ばすべく、各校は大いに健闘したが、男子は中央大学が、女子は日本女子体育大学がそれぞれ5戦全勝で優勝した。

中大のエース、西村と長谷川は連日快調にとばし、ともにシングルス5戦全勝、ペアを組んだダブルスでも4戦全勝の活躍ぶりで、この二人の力が他選手の力をも引き出し、みごとに王座を獲得した。

一方女子の日本女子体育大学は、エース近藤を欠きながら（世界選手権出場のため）チームワークで頑張り東女体、日体大戦で各1ポイント落としたにとどまり、5戦全勝を果たした。日女体大の米倉は日体大戦こそ大塚に敗れたが、他はすべてトップシングルスに起用され、先兵の役を果たしたのは立派である。

総じていえることは、男子は全体にスケールが小さくなり、それぞれの選手が、それなりにまとまってしまっており、型破りのプレーヤーが見られない。したがって荒けずりながら将来が楽しみというよりも、すでに完成されているプレーヤーが多い。かつての小宮好雄（立大）、小島一平（中大）、秋山真男（中大）、森芳夫（法大）、池田信孝（法大）、本間順次（中大）、谷口寛（立大）といったスケールの大きい、またユニークな選手の登場が待たれる。一方、女子も米倉、渡辺、石田（日女体大）、関根、大塚、徳永（日体大）、といったところは頑張っているものの、全日本級、さらに国際級といえる人材には乏しいものがある。

トレーニングを積むことにより、まだまだプレーは伸び、スケールも大きくなるはずだから、小さくまとまるよりも自分なりの特長を伸ばすよう頑張ってもらいたいものである。

また、下部校では男子3部で、明治大学が優勝し、さらに入替戦でも一橋大学を降して2部に復帰した。しかし同じ3部の立教大学は5戦全敗で最下位、入替戦も埼玉大学にストレートで敗れ、とうとう4部に転落した。

明大は、長い間3部に低迷していたが、新人の長谷川、高階（横浜立野高卒）といったインタハイ経験者の獲得に成功し、勝利に大きく貢献したのに対し、立大は補強が今年もうまくいかず、数少ないメンバーのうちほとんどがバドミントン未経験者ということで、復帰どころか3部維持にも失敗してしまった。

加藤、片石、佐藤、永井、並木、北島、板垣兄弟、小宮、東条、大竹、安沢といった数多くの名選手を生み、育てた立大が、いまや4部とは、昔日の感の深いものがある。

男女第1部優勝校の成績は次のとおり。

**男子1部優勝・中央大学**

▽第1日・対慶応大学

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 長谷川 2 | 15—3 | 15—12 | 0 | 宮崎 | | |
| 西村 2 | 15—8 | 15—6 | 0 | 森下 | | |
| 米山 | 15—7 | 15—12 | 12—15 | 1 | 柳本 | |
| 管 2 | | | | | 木村 | |
| 西村 | 15—6 | 15—9 | 0 | 梶田 | | |
| 長谷川 2 | | | | 橋本 | | |
| 坂井 | 13—15 | 7—15 | 2 | 宮崎 | | |
| 吉岡 0 | | | | 諏訪 | | |
| 管 2 | 15—9 | 15—4 | 0 | 木村 | | |
| 吉岡 | 15—8 | 15—10 | 0 | 柳本 | | |

▽第2日・対日本大学

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 長谷川 2 | 15—2 | 15—0 | 0 | 福田 | | |
| 西村 2 | 15—11 | 15—5 | 0 | 亀里 | | |
| 西村 | 15—7 | 15—4 | 0 | 山本 | | |
| 長谷川 2 | | | | 高橋 | | |
| 坂井 | 12—15 | 7—15 | 2 | 後藤 | | |
| 吉岡 0 | | | | 加藤 | | |
| 米山 | 15—4 | 15—11 | 0 | 中谷 | | |
| 管 2 | | | | 伊東 | | |
| 吉岡 | 15—10 | 18—17 | 0 | 山本 | | |
| 2 | | | | | | |
| 管 | 15—4 | 15—6 | 0 | 高橋 | | |
| 2 | | | | | | |


▽第3日・対日本体育大学
長谷川 2
西村 2
米山 管 2
船本川 0
西村 長谷川 2
米山 管 2
西村 2
長谷川 2
15 16 15 / 1 18 10
15 15 / 4 4
15 15 / 0 0
15 15 / 2 5
9 10 / 15 15
17 15 / 15 5
15 9 15 / 4 15 10
▽第4日・対法政大学
長谷川 2
西村 2
船本川 0
西村 長谷川 2
米山 管 2
船本川 0
吉岡 2
管 2
15 15 / 7 5
15 15 / 10 8
12 15 / 15 18
15 15 / 5 7
15 15 9 / 7 2 15
9 13 / 15 15
15 15 6 / 15 15 12
管 1
1 岩崎
0 鏑木
0 沼沢
0 秋庭
2 平野
0 工藤
1 中村
0 仲尾
2 佐仲
0 酒井
1 峯森
0 富田
0 宮森
0 仲尾
0 宮森
2 佐藤
女子1部優勝・日本女子体育大学
▽第1日・対大妻女子大学
坂井 0
吉岡 2
滝船川 2
米山 西村 1
坂井 長谷川 2
西村 2
長谷川 2
10 11 / 15 15
15 15 / 10 9
15 15 / 2 1
16 10 17 / 18 15 14
15 15 / 8 11
15 15 / 2 7
15 15 / 3 4
▽第5日・対早稲田大学
2 大橋
0 茶谷
0 石黒
2 平内
0 橘川谷
0 亀谷
0 水内
▽第2日・対青山学院大学
渡辺 2
米倉 2
本吉 2
渡原辺田 2
島上田野 2
加藤 2
米倉 2
11 11 / 3 6
11 11 / 2 6
11 11 / 0 4
15 15 / 3 8
15 15 / 2 6
11 11 / 5 4
11 11 / 0 1
0 橋本
0 荒木
0 大友
0 喜多川
0 富田
0 松田
0 松本
▽第4日・対明治学院大学
石田 2
島上田野 1
米石倉田 2
渡辺 2
米倉 2
石田 2
島上田野 2
米石倉田 2
11 11 / 5 4
13 6 15 / 18 15 10
15 15 / 8 5
11 11 / 2 0
11 11 / 4 7
11 11 / 5 4
15 15 / 12 3
15 15 / 2 1
0 塚本
2 高沢 岸内
0 土小谷松
0 南雲
0 高岸
0 代
0 若橋園本
0 山荒管木
▽第5日・対日本体育大学
本吉 2
渡米辺倉 2
島上田野 2
渡辺 2
米倉 2
米倉 1
11 11 / 4 3
15 15 / 0 1
15 15 / 0 0
11 11 / 2 1
11 11 / 2 1
3 6 12 / 11 11 11
0 石川
0 細高井橋
0 田石淵田
0 細井
0 田淵
2 大塚
▽第3日・対東京女子体育大学

渡辺2 (11—2) (11—5) 0 徳永
石田2 (15—10) 0 関根
米倉2 (15—10) 0 大塚
渡辺2 (15—7) 0 日山
原田2 (15—10) 0 藤井
石田 (打ち切り) 関根

なお2部以下の成績・順位は次のとおり。

◆男子▽2部
①青山学院大5—0②関東学院大4—1③大東文化大3—2④専修大2—3⑤千葉大1—4⑥一橋大0—5

▽3部
①明治大5—0②神奈川大3—220P③東海大3—215P④東京大2—317P⑤東京理科大2—315P⑥立教大0—5

▽4部
①埼玉大4—123P②東京都立大4—121P③成蹊大3—223P④横浜国立大3—217P⑤東洋大1—4⑥東京経済大

▽5部
①明治学院大5—0②東京農業大4—121P③茨城大2—318P④東京農業工業大2—313P⑤山梨大2—312P⑥国学院大0—5

▽6部（以下順位のみ）
①武蔵大②横浜市立大③国士館大④千葉商科大⑤独協大⑥東京工業大

▽7部
①玉川大②駒沢大③明星大④東京学芸大⑤成城大⑥武蔵工業大

▽8部
①城西大②電気通信大③東京玆恵会医科大④創価大⑤東京電機大Ⅰ部⑥武蔵野美術大

▽9部
①千葉工業大②都留文科大③高崎経済大④学習院大⑤横浜商科大⑥東京電機大Ⅱ部

▽10部
①帝京大②工学院大Ⅰ部③東京外語大④水産大⑤富士短期大⑥武蔵野音楽大

▽11部
①筑波大②関東学院大Ⅱ部③淑徳大④商船大⑤立正大⑥多摩美術大

▽12部
①上智大②東邦大③工学院大Ⅱ部④桜美林大⑤昭和大⑥防衛医科大

◆女子▽2部
①埼玉大4—117P②早稲田大4—115P③東京学芸大3—216P④日本女子大3—211P⑤群馬大1—4⑥千葉大0—5

▽3部
①昭和女子大5—0②明治大4—1③成蹊大2—39P失ゲーム8④お茶の水女子大2—39P失ゲーム21⑤慶応大1—410P⑥国学院大1—47P

▽4部
①学習院大4—117P②明星大4—116P③都留文科大3—216P④武蔵大3—213P⑤国士館大1—4⑥共立大0—5

▽5部
①横浜国立大5—0②玉川大4—1③津田塾大3—2④東京都立大2—3⑤独協大1—4⑥女子美術大0—5

▽6部（以下順位のみ）
①大東文化大②東京理科大③東京経済大④東洋大⑤杉野女子大⑥武蔵野美術大

▽7部
①日本大②東京家庭大③立教大④横浜市立大⑤東京農業大⑥富士短期大

▽8部
①駒沢大②神奈川大③東京女子医科大④東京大⑤成城大⑥清泉女子大

▽9部
①立教大②東海大③東京女子短期大④東京女子大⑤武蔵野音楽大⑥青山学院女子短期大

▽10部
①一橋大②創価大③十文字学園女子短期大④東京外語大⑤跡見短期大⑥文京大

▽11部
①専修大②城西大③東洋大学短期大④白梅短期大⑤桐朋大⑥図書短期大

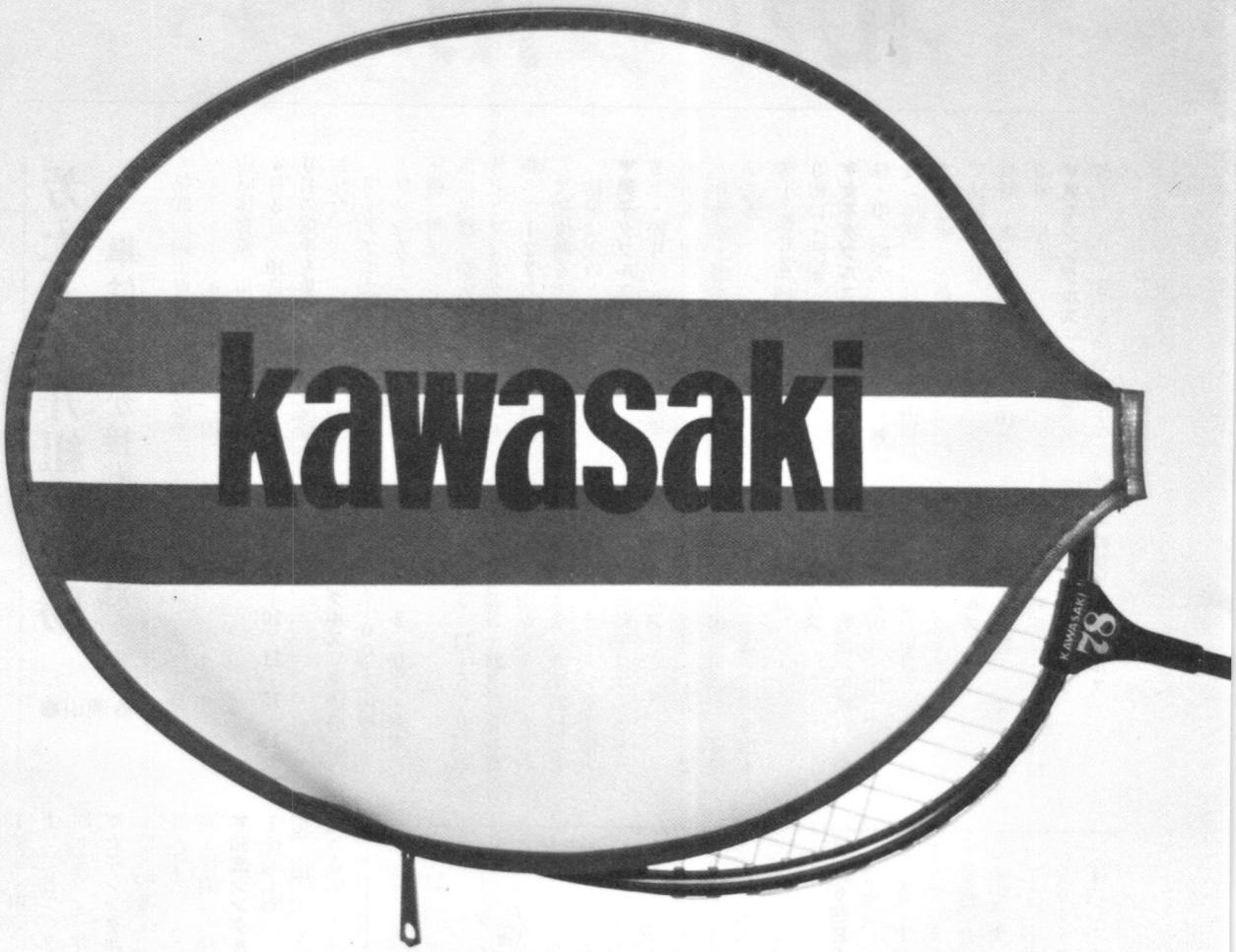
▽12部
①筑波大②上智大③聖心女子大④桜美林大⑤淑徳短期大⑥多摩美術大

▽13部
①淑徳大②立教女学院短期大③関東学院大④衛生短期大⑤川村女子短期大⑥東京農業工業大⑦帝京大⑧関東学院女子短期大

（大学名のあとの数字は勝敗をあらわす。そのあとのPは同じ勝敗の場合、順位を決める勝ちポイント数をあらわす。さらに同ポイントの場合は、失ゲーム数の少ない方が上位となる）

カワサキラケット
河崎ラケット工業株式会社

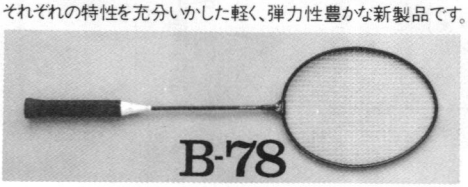
# ドラマが始まる。




# 世界が燃える。

イギリス、デンマーク、インドネシア…
世界のコートで実力を発揮し、活躍するカワサキ。
数々の勝利のドラマを生み、
トッププレーヤに注目され続けています。

アルミ、クロームモリブデン、アルミ合金ダイカストを採用。
それぞれの特性を充分いかした軽く、弾力性豊かな新製品です。




No.B-78/セブンエイト/モスグリーン(アルミフレーム)
フレーム価格6,000円(ケース付)

# 北から南から

## 芳上・松井組が圧勝
### 単は平田が接戦で栄冠
●岡山●

第20回岡山県会長杯争奪春季バドミントン選手権大会は、岡山県体育館、川崎製鉄体育館で4月3日、10日の両日、約200名の選手を集めて盛大に開催された。

男子ダブルスでは実力ナンバーワンの芳上・松井（三井）が圧勝、男子シングルスでは平田重（川鉄）が大健闘し、決勝で芳上とファイナルのせり合いを勝って127名の混戦を抜け出して初優勝をとげた。

結果は次のとおり。

**▼男子ダブルス**▽準決勝
芳上・松井（三井）2―0藤原・平田重、田口・門屋（岡大）2―0藤原・山本（三井）
▽決勝
芳上・松井2（15―2、15―3）0田口・門屋

**▼女子ダブルス**▽準決勝
林・岸（岡大）2―0難波・難波（川鉄）、貝原・森下（山短）2―0東・安藤（岡大）
▽決勝
貝原・森下2（15―3、15―10）0林・岸

**▼男子シングルス**▽準決勝
芳上（三井）2―1門屋（岡大）、平田重（川鉄）2―1藤原（三井）
▽決勝
平田2（15―10、11―15、15―11）1芳上

**▼女子シングルス**▽準決勝
林（岡大）2―0森下（山短）、貝原（山短）2―0岸（岡大）
▽決勝
林2（11―3、11―5）0貝原

また4月23日・24日に行われた第20回岡山県実業団バドミントン選手権大会（兼第27回全日本実業団バドミントン選手権大会予選会）の結果は次のとおり。

**▼一般ダブルス**
1位＝芳上・松井（三井）、2位＝藤原・平田（川鉄）、3位＝東・大野（三化）、同＝山本・毛利（三井）

**▼女子ダブルス**
1位＝難波・難波（川鉄）、2位＝佐藤・丸山（三化）、3位＝難波・三宅（川鉄）、同＝牧野・立元（クラレ）

**▼30歳ダブルス**
1位＝藤原・上野（三井）、2位＝田丸・藤田（三井）、3位＝三宅・滝井（住重）

**▼一般男子シングルス**
1位＝平田（川鉄）、2位＝芳上（三井）、3位＝藤原（川鉄）同＝藤原（三井）

**▼女子シングルス**
1位＝難波（川鉄）、2位＝藤井（住重）、3位＝東（クラレ）、同＝松岡（三井）

**▼30歳シングルス**
1位＝上野（三井）、2位＝田丸（三井）、3位＝藤田（三化）、同＝吉原（クラレ）

**▼男子A級団体戦**
1位＝三井造船A、2位＝川鉄A

**▼男子B級団体戦**
1位＝川鉄B、2位＝三菱石油A、3位＝住友重機A、同＝クラレA

**▼女子団体戦**
1位＝三菱化成、2位＝クラレ、3位＝川鉄A、同＝川鉄B

## 楽しみな国際大会!!
### ――中国・カナダなど来日――

今年は全英バドミントン選手権大会、世界選手権大会で輝かしい成績をあげ、幸先よいスタートを切りましたが、この後も多くの国際大会が計画されています。

現在の予定をお知らせしますが、変更も予想されますので本誌の予告にご注意ください。

**▼第6回日中親善試合**

今年は、中国チームが来日する番ですが、11月開催を予定しているもののまだ中国側と最終的合意に至らず、詳細は未定です。開催地は東京だけでなく各地を転戦することになりますので、決定しだいご案内いたします。

**▼ニュージーランド国際招待バドミントン競技会**

7月15日から17日までニュージーランドのオークランドで開かれます。

**▼オーストラリア国際招待バドミントン競技会**

ニュージーランドに引き続き7月23日、24日の両日、オーストラリアのメルボルンで開催になります。わが国からはこの両大会に若手女子選手二名を派遣する方針で準備を進めております。

**▼カナダ交流試合**

9月上旬にカナダから選手団一行が来日する予定ですが詳細は未定です。

**▼第8回世界女子選手権（ユーバー杯）大会アジア地区予選会**

対戦国は韓国で、10月23日東京開催で準備を進めており、最終的ツメの段階です。韓国はいまや、中国、インドネシアにつぐ日本の脅威となっており、楽観は許されません。詳しい日時が決定しだいご案内いたしますので、ふるってご観戦・応援をお願いいたします。

このほかにも、オーストラリア・オープン（8月27日～9月2日）、カナダ・オープン（10月27日～30日）が予定されていますが、日本からは選手を派遣しない予定です。

# 田上と久森が単に優勝

## 学生勢もがんばる

●広島●

旧聞に属し恐縮ですが、第8回広島県会長杯バドミントン大会が2月13日に行われましたのでお知らせします。

各種目の順位は次のとおり。

**▼一般ダブルス**

1位＝三戸・木戸口（広島大）
2位＝相口・岩間（広島大）
3位＝田上・梅月（日本鋼管）

**▼一般女子ダブルス**

1位＝小田・佐藤組（広島大）
2位＝下馬場・道本（日製）

**▼一般男子シングルス**

1位＝田上（日本鋼管）、2位＝中西（広島大）、3位＝梅月（日本鋼管）

**▼一般女子シングルス**

1位＝久森（広島大）、2位＝宇野（同）、3位＝片野（広島修道大）

**▼高校男子ダブルス**

1位＝大元・中村（福山市立）
2位＝豊田・藤田（同）、3位＝山岡・山路（自彊）

**▼高校女子ダブルス**

1位＝大迫・藤田（女子商）、2位＝岸・世羅（葦陽）、3位＝三上・水田（祇園）

**▼高校男子シングルス**

1位＝大元（福山市立）、2位＝杉原（同）、3位＝岡田（府中）

**▼高校女子シングルス**

1位＝大迫（女子商）、2位＝藤田（同）、3位＝石田（同）

また、3月6日に行われた第8回広島県バドミントン総合選手権大会は、男子団体戦で三菱福山が強豪日本鋼管を3―0で破って調子に乗り、決勝も広島大学(A)を3―2の接戦で降し、みごとに優勝を飾った。

一方女子団体戦は第一シードの広島第一が順調にコマを進め、決勝では粘る祇園(B)を3―2で降して優勝した。

# ジュニア・スクール開く

## 成果が期待できそう

●太田市●

意欲的に地域社会としてバドミントンに取り組んでいる太田市バドミントン協会は、昭和52年度の活動における12の柱を次のように決定しました。

(1) 事務分担の完全実施
(2) 表彰規定の明文化
(3) 長期ジュニア・スクールの開設
(4) 一般、学生、高校生の長期的プランの実施
(5) 競技的大会の充実
(6) 初級者層の普及の拡充
(7) 地区練習会の実現と運営
(8) 家庭婦人教室の斬新な運営
(9) 市民への活動内容のPR
(10) 当協会認定バドミントン指導員の資質向上と活用の活発化の促進
(11) 東毛広域圏親善大会の開催
(12) 理事長・専門正副部長の対話日の設定

このうち〝ジュニア・スクール〟開設は、底辺拡大と基礎を十分に、体に覚えさせる意味で意義が大きいと思われるので、詳しくご紹介しよう。

まず、対象者は、5月末日現在で10～13歳までの太田市内在住児童だから、小学校4年から中学2年といったところの、習得のきわめて早い年齢層である。

期日は6月5・12・26日。7月3・24日。8月7・8・9・19・20日。9月4・11・25日。10月16・30日。11月6・20日。12月4・18日。53年1月6・7・8・22日。そして2月12・26日で、各2時間ずつ。

指導は市バドミントン協会認定の指導員があたり、四会場を使用、いずれも先着25名が定員。

会費はスポーツ傷害保険料込みで一五〇〇円となっている。

この種の指導は、ボランティア的指導者が多数必要とされるところから、ややもすると好意に甘えすぎ、尻すぼみに終わる場合があるが、このジュニア・スクールは、市教育委員会の共催ということもあり、全市をあげてのバックアップが期待できそうである。

## 青木昭二氏勇退

大阪バドミントン協会、というよりは西日本の重鎮、青木昭二氏は、このたび大阪バドミントン協会理事長の職を勇退され、副会長に就任した。

青木氏はバドミントン関係者ならばよくご承知のとおり、昭和41年に理事長に就任するや、関西のリーダーとして活躍、佐藤茂雄氏、片岡輝明氏、杉田忠邦氏といった名指導者とみごとなチームワークを組み、数々の優秀選手を世界へ送り出した。とくに女子選手は、その大半を大阪出身者で占めるほどの現状となっている。

西尾、秋本姉妹、徳田、高田植野、石川、平……といったぐあいである。とくに栂野尾選手と組んだ植野恵美子選手の、全英選手権、第一回世界選手権優勝の快拳は、青木氏勇退へのすばらしいプレゼントとなった。

青木昭二氏の今までのご努力を讃えるとともに、今後のご活躍に期待したい。


ガブ飲み爽快！サントリービール
サントリービール純生®
SUNTORY
BREWED
BEER
BREWERY
純生

# 談話室



**予告はもっと早く**

編集部に注文があります。それは大会予定をもっと早く知らせてほしいということです。どこで、いつ、どんな大会が、そして見どころなどを、早くから知らせてほしいのです。そして、一般にももっとPRしてください。ポスターや広告など、バドミントンはもう何年も見たことがありません。正直な気持ち、いったいやる気があるのか、といったところです。他のスポーツは、ポスターや新聞案内などずっと早くからやっています。人手が足りないのかも知れませんが、PRを怠っていると、一般のファンはだんだん足が遠のくということを、しっかりと心に刻んでほしいものです。

（埼玉県・横田昭二・38歳）

◆事前PR、予告については編集部でも十分に注意していますが、ご指摘のとおりで申し訳ありません。せめて全国クラスの大会は、もっと早くからお知らせするように準備します。

**〝エツコ〟がんばれ**

「エツコのバドミントン・ライフ」楽しく読ませていただきました。梅野尾選手は竹中さん時代からの大ファンですが、家庭の主婦としてもみごとに切り盛りしているようすが想像できます。第一回は少女時代の思い出でしたが、バドミントンとの出会い、ご主人との恋など、この先が楽しみです。

（東京都・村田淑子・21歳）

◆回を重ねるうちに次第にペンもよく走るようになるでしょう。どうぞご期待ください。

**トッププレーヤーのラケットは**

いつもグラフページをみて、一流選手はどんなラケットを使用しているのか探っています。一流選手と同じラケットを使えば同じプレーができるなどと甘い考えはありませんが、一歩でも半歩でも近づきたい心境なのです。そこで、わが国（できれば海外も）の選手はどのようなラケットを使用しているか特集してもらえないでしょうか。重さ、バランス、グリップなどできるだけくわしくお願いします。

（北海道・吉田伸保・16歳）

◆ラケットにも他のスポーツ用品同様、新素材の波が押しよせているようです。当初のオールウッドからスチールシャフトや、オールスチールへと目まぐるしく進歩しています。素材も今では、木、竹、クローム、モリブデン、ステンレス、カーボン、チタンなどいろいろです。ぜひ近いうちに、ラケットのカルテを発表したいと思います。

**臨時増刊号はまだ？**

半年ほど前の本誌で、「減ページの埋合せに増刊号を出す」という記事があったが、その後どうなっているのだろうか。もし具体化しているのなら、内容を教えてほしい。また正確な時期も知りたい。

（愛知県・井上和彦・38歳）

◆大変申し訳ありませんでした。ようやく14ページに発表のとおり準備が整いました。当初は臨時増刊号という扱いにするはずでしたが、内容が写真中心になるため第三種郵便物からはずれ、別冊といたしました。したがって送料が四倍ほど高くなりますが、定期購読の読者の皆様には、予定どおり無料にてお送りいたしますので、ご期待ください。

**湯木さんの連載はいつから？**

4月号に湯木博恵さんの連載が始まると書いてありましたが、なかなか始まりません。どうしたのでしょうか。やはり第一線に立つ選手の手記は、迫力もあり、説得力も断然違います。期待していますので、早くお願いします。

（神奈川県・青木満憲・17歳）

◆6月号から開始の予定でしたが、ご存知のとおりのハードスケジュールで、なかなかペンをとる時間がないのです。全英選手権、全日本チャンピオンズ・トーナメント、世界選手権、全日本実業団といったぐあいですから。しかし、何とか合い間を見つけて原稿用紙に向かっていただいておりますので、もうしばらくお待ちください。

**地方の話題が少ない**

毎月本誌を読むたびに思うことは、記事が東京に集中していて、地方の話題が少ないということです。もっと地方の大会や活動のようすをキメ細かに取り上げてください。

（東京都・松崎真弓・20歳）

◆たしかにその傾向は否定できません。編集部のスタッフ不足を各地との綿密なコミュニケーションで補っていくために、各地にバドミントン界担当の〝特派記者〟を募っております。読者の方々もふるって投稿をお寄せください。

**用語集をつくってほしい**

バドミントンを始めて二年ほどになりますが、用語についてかなり混乱しているように思います。たとえばハイクリヤーとハイクリアー、ドライブとストレート、ショットとカット、セットとゲーム……。バドミントン界は唯一の専門誌なのですから、決定版ともいうべき「バドミントン用語集」をつくってください。

（大阪府・青田隆二・15歳）

◆これはたしかに重要なことですから、指導委員会とタイアップして準備を進めたいと思います。できれば和英対訳とし、ルールも原文で収録したいと思います。

▼本欄への投稿はハガキで本誌編集部「談話室」係あてお送りください。採用の場合には記念品をお送りいたします。

▼今回採用させていただいた皆様には、株式会社ゴーセン提供のスポーツソックスとガットをセットにしてお送りいたしました。どうぞご愛用ください。

# 大会のスケジュールが決まりました

**昭和52年大会予定カレンダー**

**◆国内◆**

**▼すでに行われたもの**

第8回全日本女子チャンピオンズトーナメント（4・24）
▽第27回全日本実業団選手権大会（6・17～22大阪・京都）

**▼これから行われるもの**

▽第28回全国高等学校選手権大会（8・1～6倉敷）
▽第16回全日本教職員選手権大会（8・8～12下関）
▽第7回全国中学生大会（8・15～17伊勢）
▽第3回全日本男子オールスターダブルス（8・28東京）
▽第20回全日本社会人選手権大会（9・15～18真岡）
▽第32回国民体育大会（10・3～6青森県浪岡）
▽第26回全日本学生選手権大会（11・1～7鳥取）
▽昭和52年度全日本総合選手権大会（12・14～18東京）
▽第5回全日本実業団対全日本学生対抗（1・16東京）
▽昭和52年度全日本総合選手権大会団体戦（2・25、26東京）
▽第9回全日本女子チャンピオンズトーナメント（2月東京）
▽第6回全国高等学校選抜競技会（3・19～21東京）

**◆国際・海外◆**

**▼すでに行われたもの**

▽第1回世界個人選手権大会（5・3～8スウェーデン）

**▼これから行われるもの**

▽第6回日中親善試合（7月中旬または11月中旬～下旬東京）
▽ニュージーランド・オーストラリア招待（7月中旬～下旬）
▽オーストラリア・オープン（8・27～9・2）
▽カナダ交流試合（未定）
▽カナダ・オープン（10・27～30）
▽第8回世界女子選手権（ユーバー杯）大会アジア地区予選対韓国戦（10・23、30東京）
▽スウェーデン・オープン（1・6～8）
▽デンマーク・オープン（3・8～11）
▽第68回全英選手権大会（3・15～18）
◎ユーバー杯大会アジア地区予選対韓国戦に勝つと3月31日までに、マレーシア対インドの勝者と、アジア地区決勝を行う。

# 編集室から

◆本誌が出る頃はもう〝梅雨明け宣言〟も間近いことでしょうが、現在はどんよりと曇り空と雨の日が続いています。

そんな湿度の高いジメジメした天候の下、6月17日から6日間にわたって「全日本実業団」が大阪・京都で開催されました。一番過酷なスケジュールで定評のあるこの大会。文字どおり〝熱戦〟でした。

来月号は、この全日本実業団を中心にお届けします。お楽しみに!!

◆今月は〝インターハイの思い出〟を六名の方に語ってもらいました。夏の〝甲子園〟に相当するこのバドミントンの祭典もあとわずか。六名のそれぞれの体験談が、少しでもお役に立つことがあれば、編集部にとってもこんなに嬉しいことはありません。

◆〝エツコのバドミントン・ライフ〟いかがですか、これから相沢マチ子さんとの出会いなど本当のバドミントン・ライフが始まります。楽しみですね。

◆皆さんも、感想や意見をどしどしお寄せ下さい。お待ちしています。

〈9ページから続く〉

**▼岡山県**

BT・水島工業
BT・西大寺
GT・山陽女子
GT・倉敷中央
BS・守安達二（水島工業）
BS・安田勝己（西大寺）
BS・佐々木幸男（倉敷工業）
BS・亀山文雄（倉敷工業）
GS・田辺淑子（山陽女子）
GS・亀山映子（山陽女子）
GS・梶田百枝（山陽女子）
GS・紙本智子（山陽女子）
BD・守安達二・樋口正幸（水島工業）
BD・小林延行・安田勝己（西大寺）
BD・野瀬宣之・渡辺俊二（倉敷天城）
BD・松本伸二・難波美雄（水島工業）
GD・田辺淑子・梶田百枝（山陽女子）
GD・紙本智子・斎藤薫（山陽女子）
GD・亀山映子・村上知子（山陽女子）
GD・峰政ひとみ・皿井由美子（山陽女子）

岡山県は開催県のため男女団体戦各二枚、男女個人戦各八名（八組）が代表として出場。

**▼長野県**

BT・大町北
GT・諏訪二葉
BS・柴子田（大町北）
BS・四矢野（中野実業）
GS・中山（須坂東）
GS・山崎（大町北）
BD・降旗・山川（大町北）
BD・梨子田・細野（大町北）
GD・戸谷・山岸（大町北）
GD・武田・山崎（大町北）

バドミントン界　通巻第93号　1977年7月号　定価 300円

昭和52年7月1日発行
編集人／赤星　三樹
発行人／秦　浩

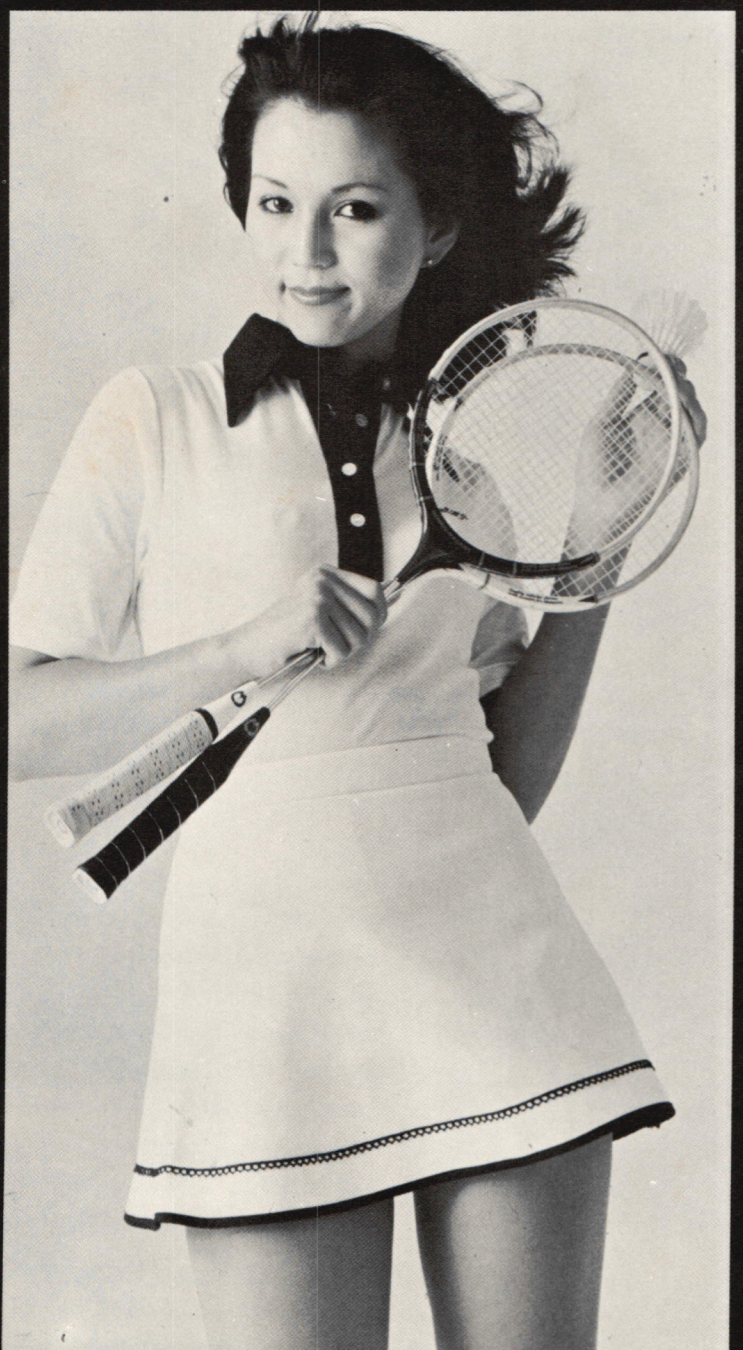
©1977　無断転載を禁ず

発行所・日本バドミントン協会
郵便番号150 東京都渋谷区神南1－1－1　岸記念体育会館
電話　03－467－3111(代表) 内線351
振替　東京5-32193(協会)　東京5-9525(編集部)

ウインテックスウェアはシンプルにはぎれよく

# Wintex WEAR®







スワニーが保つ権威の
シャトル/最高級品。

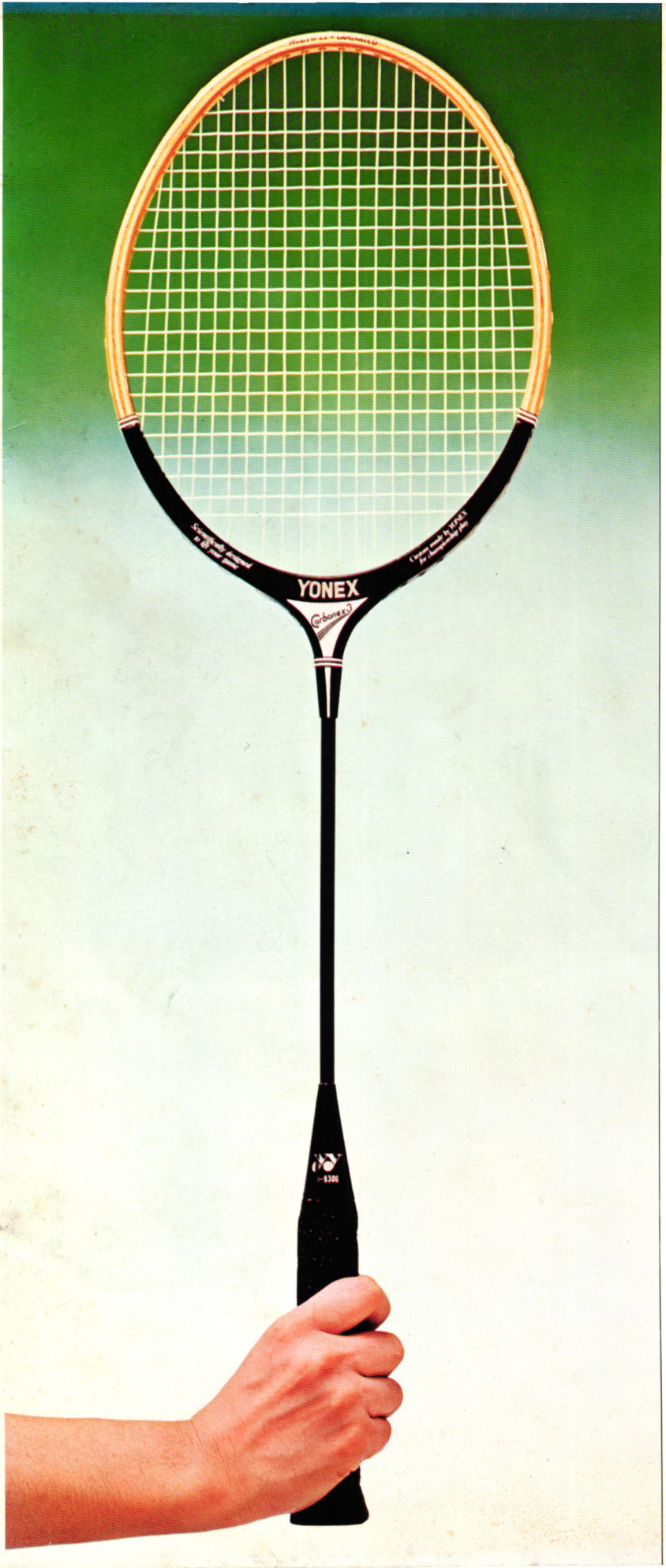


BADMINTON SHUTTLE COCK

SWANY

株式会社ゴーセン
■本　　社●大阪市東区豊後町4　　☎(06)942-5816 代
■東 京 支 店●東京都台東区蔵前4-14-2 ☎(03)862-6576 代
■福岡営業所●福岡市中央区薬院1-4-8 ☎(092)712-5247 代

月刊「バドミントン界」7月号
昭和五十二年七月一日発行（毎月一回一日発行）
発行所
東京都渋谷区神南一ノ一ノ一
日本バドミントン協会
定価三〇〇円




# 凄いのが生まれた、カーボネックススリー。

ヨネックスがまた、世界で初めてということをやってのけました。それが、初のカーボンシャフトをもつラケット、カーボネックススリー。強烈な反発力。そしてすべてのストロークにぴたりと適合するというたぐいまれな特性は、まさにカーボンならではのもの。いわばオールマイティなラケットといえましょう。世界のトッププレイヤーが力から技へそしてまた力へと移ってきた今、その変化に応えられるのはこれ、カーボネックススリー。

**B-9300 Carbonex3**

●カーボネックス スリー《新製品》……¥7,500

YONEX